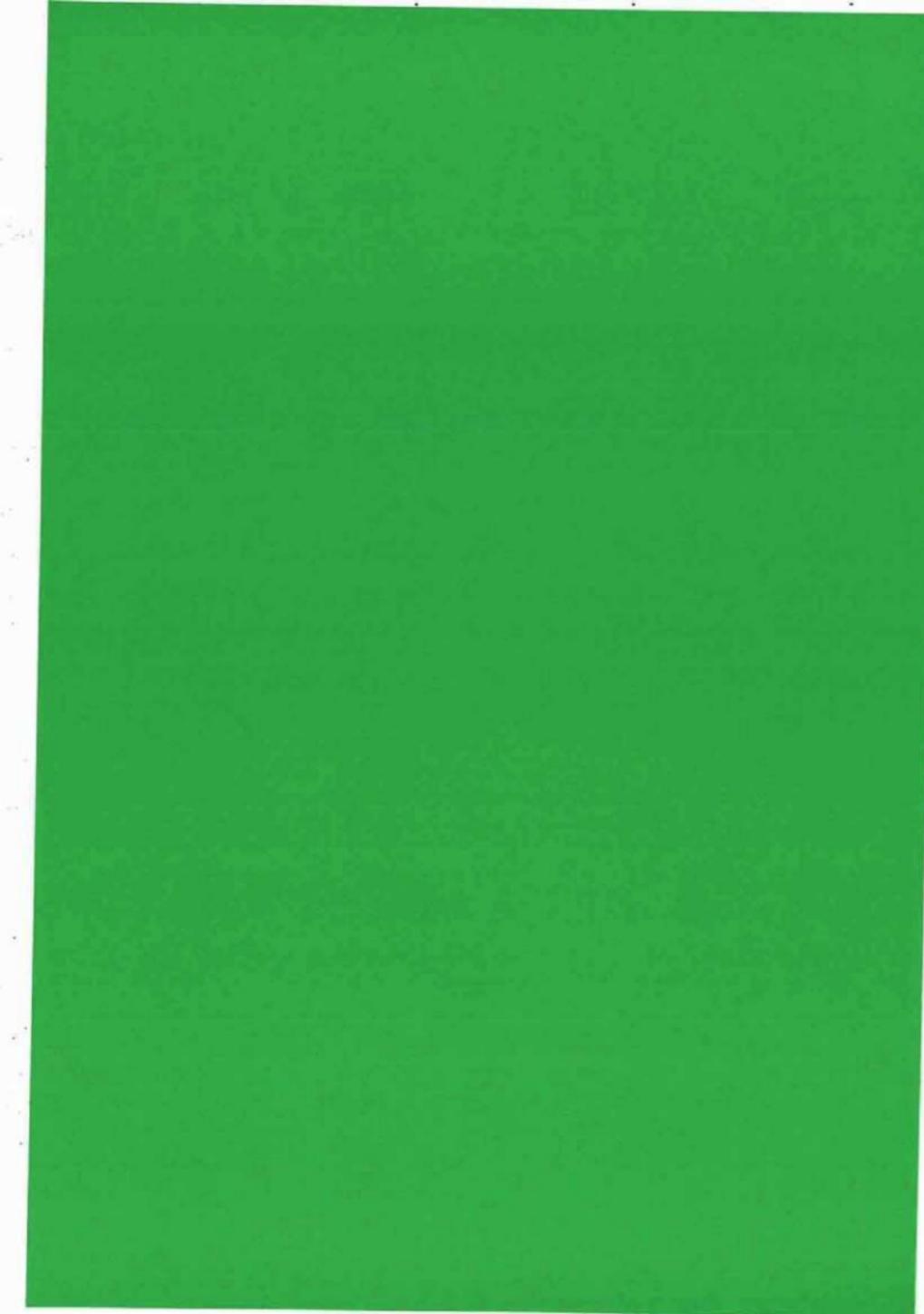


年報 第39集

平成20年度文化財調査報告書



前橋市教育委員会



序

私達は歴史を造るとともに、多くの文明や技術革新を生み出しました。今ある技術の進歩は、生活を快適にして、その発展は地を離れ、宇宙へ到達し、新たな歴史を築きあげようとしています。しかし、その発展の中で、昔の遺産を失うことも少なくありません。将来への発展は、過去からの物質的並びに知的財産の継承も含まれ、古との結びつきを持つ大切さが求められています。

今の私達が歴史を身近に触れられるものが、地域にある指定文化財であり、伝統芸能などが挙げられます。本市教育委員会は、誰でもが、歴史をより身近に感じられるような体験やイベントを開催し、文化財の普及啓発を進めております。

平成 20 年度は、小学生が親しみを持てる参加型のイベントから、歴史を探求する文化財展、郷土芸能の披露等を行いました。開催にあたっては、会場も文化財の活用の場として考え、国指定史跡古墳のある大室公園でもイベントを行いました。そして発掘調査の現場では、調査の成果を多くの方へ周知すべく、現地説明会を開催して、地下に隠された文化財を広く公開しました。

先人から贈られた文化財の継承と有効活用は、私たちに与えられた責務であり、また将来に向けた生きた証となるでしょう。本書は平成 20 年度に行われた文化財保護事業の概要で、埋蔵文化財発掘調査の成果も掲載されています。この報告書をご覧いただいた皆様方の文化財に対する理解が深まり、より一層の保存・活用に向けての契機となれば幸いです。

最後に、本市の文化財保護行政を進めるにあたり、ご指導ご協力いただいた関係各位、並びに諸機関に心から御礼申し上げます。

平成 21 年 12 月

前橋市教育委員会

教育長 佐 藤 博 之

目 次

序

第1章 文化財調査委員による調査

1 大穴のブナ	1
2 天川大島の松並木	1
3 二宮赤坂神社太々神楽	3
4 平和町の山車	4
5 大胡・宮城・柏川地区市指定文化財に関する意見交換会・協議の結果について	5

第2章 新指定文化財・新登録有形文化財

1 二宮赤坂神社太々神楽	7
2 上毛電気鉄道柏川橋梁	8

第3章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業	9
2 整備事業	14
3 普及事業	18
4 埋蔵文化財発掘調査事業	24
5 市内遺跡発掘調査事業	63
6 遺跡台帳整備事業	63
7 埋蔵文化財資料整備事業	64
8 山王廃寺等保存整備事業	65

あとがき

第1章 文化財調査委員による調査

市指定天然記念物については、平成19年度に現況調査を行ったが、実施できなかつた1件について、平成20年10月6日（月）に調査を行つた。結果は、以下の通りである。

1 大穴のブナ

所在地 前橋市柏倉町
指 定 平成4年8月18日（市指定天然記念物第9号）
指定時の計測値 樹高2.5m、目通り周4.1m
調 査

（1）大きさ

樹高2.4.5m、目通り周4.07m
枝張り 東西2.5.1m、南北2.3.8m

（2）現状

大穴のブナは、1本だけ孤立し周囲ではない。樹勢は旺盛に見えるが、すでに生長の限界に達しているようである。果実（種子）は形成された形跡がなく、種子や殻斗の落下も認められず、また、周囲には幼樹や若木も見当たらない。

葉は小さく、典型的な太平洋側に分布するブナの様相を呈している。

赤城山のブナ林分布地は限られており、小鳥ヶ島、沼尾川流域と薬師岳北面などに小規模に存在する。赤城山南面では、滝沢不動尊付近の粕川右岸や三夜沢に点在する。

しかし、これらの樹下には、稚樹や若木は、ほとんど見られない。

2 天川大島の松並木

同日、天川大島の松並木の調査も行った。本件の調査は、地元の方の意向を受け実施したものである。調査は、松並木の松の中から規模の大きいものを抽出し計測した。結果は、以下の通りである。

（1）大きさ ※樹木番号は次頁クロマツ植生図参照

No	目通り周m	高さm
11	2.16	19.5
12	2.20	26.2
27	2.07	26.5
36	1.81	20.5
66	2.34	15.0

（2）結果

天川大島の松並木は、地元では、樹齢300年といわれているが、今回の調査では、それを裏付けるようなデータは得られなかった。また、切り株がいくつか残されていたが、どれも状態が悪く、正確に年輪を数えることはできなかった。

（3）その他

天川大島町本町公民館に隣接する愛宕神社には、天宮松と書かれた切り株（写真1）が掛けられていた。また、神社の反対側の農機具販売会社の事務所にも、大き

な切り株（写真2）が残っていた。松並木の松といわれているが、それ以上のことは不明であった。

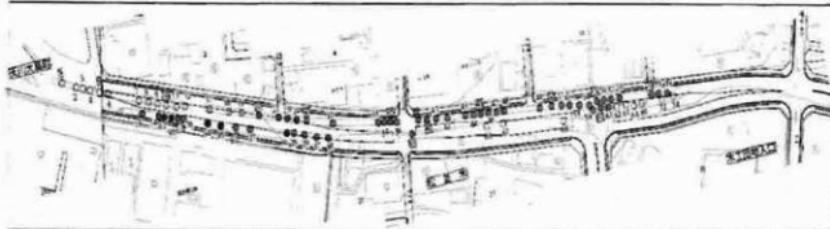


写真1



写真2

クロマツ植生図



区分	樹種	本数(本)
現況	クロマツ総数	79
内訳	地区外	5
	地区内	74

<再生整備計画(クロマツ)>

地区外	No.1~5	5
移植対象外		19
移植可能		44
内訳	中央分離帯	38
	公園	6
伐採		11

(4) 関連調査

群馬県立文書館に所蔵されている絵図（壬申地券地引絵図及び元禄上野国絵図）を確認したが、松並木は描かれてなかった。文書館の担当者によると、絵図は、自然の様子等も含めて詳細に描く場合と必要最小限の情報しか描かない場合があり、天川大島の場合は、後者であった。

愛宕神社に天川大島の様子が描かれた絵図があったとの情報があり、宮司及び氏子の代表者に確認したが、所在は不明であった。



壬申地券地引絵図 1



壬申地券地引絵図 2



元禄上野国絵図

3 二宮赤城神社太々神楽

平成 20 年 10 月 9 日（木）、二宮赤城神社太々神楽の調査を行った。後日提供されたものも含めて、神楽に関する主な所蔵資料は、以下の通りである。



神楽秘書（伝授書 昭和 7 年版）



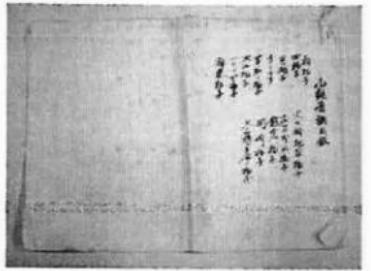
水次ぎ之舞



笛（音符）



太鼓（音符）



小鼓（音符）



版本



官司から当地を治めることになった代官（前沢藤十郎）に宛てた上申書に添付されていた絵図（配置図）

4 平和町の山車

平成19年10月9日（木）、平和町（旧向町）の雷電神社の山車について調査

を行い、その際、「横地七右衛門」他20名程度の墨書きが確認された。

「横地七右衛門」は、江戸時代末期の向町の名主で、前橋市史によると、弘化2年（1845年）頃から「向町御用日記」にその名が見られることから、山車は、江戸末期のものである可能性があると考えられた。また、調査時に、前橋祇園祭礼とかかわりがある踊り舞台（芸屋台）のものと思われる部材も、新たに收藏庫内から発見された。旧市街地の江戸時代の山車や舞台（屋台）は、戦災で焼失してしまっており、現存する唯一のものである可能性が大きく、文化財としての価値は極めて高いと推測された。そこで、平成21年1月20日（火）、伊勢崎市内の山車の調査実績がある日本工業大学黒津教授に調査を依頼した。



雷電神社の山車



「横地七右衛門」の墨書き



黒津教授による調査

黒津教授からは、さらに詳細な資料を得るには、2日程度の調査が必要であるとの話があり、後日改めて調査を実施することになった。

5 大胡・宮城・柏川地区市指定文化財に関する意見交換会・協議の結果について

前橋市文化財調査委員と大胡・宮城・柏川地区の旧文化財調査委員が、各地区的文化財について、見直しを前提とした意見交換・協議を行った。ある程度合意が得られた物件もあったが、見解の相違が明らかとなった物件も数多く残った。合意に至らなかつた物件については、次年度、再度現地調査・検討を行うこととなった。

(1) 意見交換会

○大胡地区市指定文化財に関する意見交換会

日 時 平成20年9月2日(火) 13:15~15:15
会 場 文化財保護課東会議室
出席者 • 前橋市文化財調査委員
• 旧大胡町文化財調査委員
• 事務局(文化財保護課)

○柏川地区市指定文化財に関する意見交換会

日 時 平成20年9月2日(火) 15:15~16:15
会 場 文化財保護課東会議室
出席者 • 前橋市文化財調査委員
• 旧柏川村文化財調査委員(都合により文書による回答)
• 事務局(文化財保護課)

○宮城地区市指定文化財に関する意見交換会

日 時 平成20年9月9日(火) 9:00~16:00
会 場 文化財保護課東会議室
出席者 • 前橋市文化財調査委員
• 旧宮城村文化財調査委員
• 事務局(文化財保護課)

(2) 協議

○大胡地区市指定文化財に関する協議

日 時 平成20年11月10日(月) 9:00~10:15
会 場 文化財保護課東会議室
出席者 • 前橋市文化財調査委員
• 旧大胡町文化財調査委員
• 事務局(文化財保護課)

○柏川地区市指定文化財に関する協議

日 時 平成20年11月10日(月) 10:30~11:45
会 場 文化財保護課東会議室
出席者 • 前橋市文化財調査委員
• 旧柏川村文化財調査委員
• 事務局(文化財保護課)

○宮城地区市指定文化財に関する協議

日 時 平成20年11月10日(月) 13:15~16:15
会 場 文化財保護課東会議室
出席者 • 前橋市文化財調査委員
• 旧宮城村文化財調査委員
• 事務局(文化財保護課)

第2章 新指定文化財・新登録有形文化財

1 二宮赤城神社太々神樂



区分	前橋指定重要無形民俗文化財
指定年月日	平成21年3月24日
所在地	前橋市二之宮町886 二宮赤城神社
所有者及び管理者	二宮赤城神社
概要	

二宮赤城神社太々神樂は、二宮赤城神社の祭礼日に五穀豊穣と平和を祈願し奉納されている。神樂の由来は定かではないが、神楽と共に演じられてきた式三番廻で使用される舞台が、文化9年（1812年）の建築とされ、旧神楽殿（現神楽殿は、平成16年度に新築）は、同時期に建てられたものではないかとされてきた。

当神楽は、本座、裏座あわせて24座が伝承されている。本座は、記紀を題材とした神事的要素の強い儀礼的な舞で、裏座は、滑稽な内容を主とした余興的な舞で構成されている。

神楽は、笛や太鼓の音色に合わせて舞う黙劇の形式が一般的である。二宮赤城神社太々神樂の多くの座もこの形式を踏まえた舞であるが、本座で奉納される「水次ぎ之舞」は、天津姫と先達が清浄水（しようじょうすい）について述べる掛け合いの場面があり、当神楽の大きな特色となっている。

伝承は、古くから口伝で行われていたが、「神楽秘書」という伝授書が残されていた。記された文字から判断すると、古いものは、明治期に書かれたものと推測される。現在は、さらに平易な表現に書き改めた「神楽秘書—解答版一」を使用し、芸能の継承を行っている。

当社には、江戸期の境内の様子を記した絵図（配置図）の写真が残されていた。これは、明和5年（1768年）、宮司から当地を治めることになった代官（前沢藤十郎）に宛てた上申書に添付されていたもので、そこには、神楽殿の位置が図示されており、江戸期に神楽が奉納されていたと考えられる。芸能の継承は、長らく、氏子の長男が行ってきたが、地域外への就職や転出等の影響を受け、芸能の保存・継承が難しくなったため、昭和33年に二之宮町無形文化財保存会を組織し、二之宮町に住む有志が、保存会員となり芸能を継承している。

平成16年度に神楽殿を新築したのを機に子供達への伝承にも力を入れ、子供神楽を始めた。例年、奉納に向けて、年明けより稽古を開始し、4月の子供神楽の奉納時には、境内は大変な賑わいを見せる等、当神楽は、地域で大切に受け継がれ、地域に根付いた芸能である。

2 上毛電気鉄道柏川橋梁



区分	国登録有形文化財
登録年月日（原簿記載）	平成21年4月28日
所在地	前橋市柏川町女瀬～柏川町西田面
所有者	上毛電気鉄道株式会社
構造、形式及び大きさ	鋼製4連桁橋、橋長42m、橋台及び橋脚付
建設年代	昭和3年（橋桁）昭和2年（橋台・橋脚）
概要	

柏川橋梁は、上路式の鋼製4連桁橋で、3基の鉄筋コンクリート造橋脚及び東西の橋台がこれを支える。

鉄道の敷設は、昭和3年2月11日に起工、同年11月10日竣工とごく短期間に行われた。工期が短く建設費も限られていたため、橋台・橋脚の上に水平の桁を架ける桁橋の構造が採用された。

昭和2年のカスリーン台風の際、大量の流木が柏川に流れ込み、柏川橋梁でせき止められたため、東西の堤防が決壊した。これにより、橋台・橋脚が崩れたが、約2ヶ月で復旧作業を終えた。現在の橋台・橋脚は、その際、造り替えられたもので、橋脚は、当初の六角形のものから、水の抵抗をより軽減できる円形のものになった。橋桁は、損傷が少なく、開業当初のものが再び使用された。

先に登録有形文化財となった荒砥川橋梁は、カスリーン台風により橋桁も流され、1連を除き、他から譲り受けたものを使用しているが、柏川橋梁では、現在も当初のものが使われ続け、開業時の面影を今に伝えている。

柏川橋梁は、登録有形文化財登録基準の「1. 国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当する物件として登録された。

第3章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業

(1) 国有文化財管理

文部科学省(文化庁)が所有する、国有文化財、天川二子山古墳と總社二子山古墳の2箇所について、瀬沼正次氏と山田米三氏を国有文化財監視人として委託し、見回り監視、清掃等の日常管理を実施した。また、同古墳の除草等については、天川二子山古墳は前橋市シルバーパートナーズセンターに業務委託し、總社二子山古墳は地元の總社地区史跡愛好会に業務委託のうえ、6ヶ月下旬と8月下旬の計2回実施したほか職員による除草も実施した。



總社二子山古墳除草作業

(2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が16件、県指定文化財が57件、市指定文化財が227件あり、指定文化財の総数は、3月31日現在で、300件となった。

指定区分	国指定	県指定	市指定	合計
重要文化財	4	41	140	185
史跡	11	11	51	73
無形文化財	0	0	11	11
有形民俗文化財	0	0	6	6
無形民俗文化財	0	2	8	10
天然記念物	1	2	11	14
名勝	0	1	0	1
合計	16	57	227	300
登録有形文化財	21	—	—	21
登録有形文化財	1	—	—	1
重要美術品	8	—	—	8

このうち、県指定文化財の件数2増は、平成21年3月24日、市指定名勝「不動龍」が、県指定名勝「滝沢の不動龍」として指定されたこと及び県立文書館所蔵の「元禄上野国絵図」が、新たに重要文化財に指定されたことによる。

(1) 史跡等の除草及び樹木処理

市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバーパートナーズセンター及び業者に委託し、環境美化に努めた。

作業を実施した箇所は次のとおり。

除草業務一覧表

	史跡名	区分	所在地	除草延面積
1	亀原山古墳	市指定	山王町1-28-3	4,968m ²
2	金冠塚古墳	市指定	山王町1-13-3	4,814m ²
3	今井神社古墳	市指定	今井町818	4,624m ²
4	車塙門跡	市指定	大手町2-5-3	750m ²
5	天神山古墳	県指定	広瀬町1-27-7	730m ²
6	八幡山古墳	国指定	朝倉町4-9-3	20,000m ²
7	蛇穴山古墳	国指定	總社町總社1587-2	400m ²
8	宝塔山古墳	国指定	總社町總社1606	2,204m ²
9	女塚	国指定	富田・東大室・二之宮・紙土井町他	59,986m ²
10	不二山古墳	市指定	文京町3-151-6	1,142m ²
11	荒城富士山古墳	県指定	西大室町813-2他	2,700m ²
12	大胡城跡	県指定	河原町660-1 急斜面地660-31,32	24,934m ² 3,700m ²
13	堀越古墳	県指定	堀越町861	582m ²
計				131,534m ²

樹木等処理業務一覧表

	史跡名	区分	所在地	処理内容
1	女塚	国指定	二之宮町	樹木伐採
2	天川二子山古墳	国指定	文京町三丁目	樹木伐採 枝下ろし
3	八幡山古墳	国指定	朝倉町四丁目	樹木伐採 籠竹伐採
4	前二子古墳	国指定	西大室町	樹木伐採
5	中二子古墳	国指定	東大室町	樹木伐採
6	後二子古墳	国指定	西大室町	樹木伐採
7	大日原古墳	市指定	小神明町	樹木伐採 枝下ろし

② その他の環境整備

- ア 市が管理している史跡等について、職員の見回りや現状確認を行い、見学路・景観確保のためにゴミ拾いとともに、折枝や枯木の発見に努めた。
- イ 市が直接管理する国指定史跡4ヶ所の樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除を行うため、オルトランカバセル(樹木注入型殺虫剤)の樹幹注入を職員により実施した。

(イ) 実施日

平成20年5月30日(金)

(ロ) 実施場所

- ① 天川二子山古墳
- ② 稲社二子山古墳
- ③ 宝塔山古墳
- ④ 蛇穴山古墳
- (ハ) 樹木本数
81本(4ヶ所合計)

(3) 文化財の保護

① 文化財パトロール

市内を9地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置して、指定文化財の管理状況の把握に努めた。報告は月1度書類の提出をお願いし、その報告の内容により、除草や倒木の撤去等の対処をした。

平成20年度は、文化財保護指導員の委嘱の年で、中央地区と南橘・芳賀・桂萱地区では、担当者が変更になった。委嘱式及び第1回会議は、4月18日に行なった。そして、文化財保護指導員の資質の向上を図るために、10月22日に県外研修会を実施した。研修先は埼玉県熊谷市で、指定文化財や資料館の見学を行い、指導員の知識習得に多大な成果を収めることができた。



県外研修会(埼玉県埋蔵文化財調査事業団)

② 防火査察及び文化財防火訓練

ア 防火査察

第55回文化財防火デーにより、38件の文化財査察対象物に対して7班編成を組み、前橋市消防本部(各消防署)及び㈱東京電力と協力して、合同立入査察を実施した。

○平成21年1月19日(月)

(3班東消防署: 6施設)

旧諏訪神社の宝物、越掛舞台下座一對、五十山薬師如来・十二神将、大胡神社算額他、阿久沢家住宅、十一面觀世音木像、歌舞伎舞台他

(4班東消防署: 5施設)

狂歌台の額他、赤城神社本殿内宮殿他、近戸神社御輿地、三番叟かしら付属文書、木造十一面觀世音立像

※滝沢不動明王像については例年中止

○平成21年1月20日(火)

(7班北消防署: 3施設)

日輪寺寛永の絵馬他、前橋藩家老小河原左官の甲冑付旗差物、鉄造阿弥陀如来坐像

(5班西消防署: 4施設)

上野国總社神社本殿他、徳藏寺懸仏・麻本著色両界曼荼羅一對、大徳寺總門・多宝塔、光巖寺薬医門・打敷・油單並びに幡

(6班南消防署: 8施設)

旧関根家住宅・無量寿寺地蔵菩薩立像、十一面觀世音立像・二宮赤城神社絵馬他・産泰神社本殿・幣殿・拝殿、神門及び境内地・地蔵院千手観音座像・円満寺薬師如来座像・駒形牛頭天王の獅子頭一對・旧アメリカンボート宣教師館

○平成21年1月21日(水)

(1班中央消防署: 6施設)

国認定重要美術品3幅、県指定重要文化財12幅、前橋藩公平家奉納表束一式、酒井重忠画像、八幡宮文書(一巻九通)・伯牙弾琴鏡、臨江閣本館・茶室・別館、典籍前橋藩松平家記録(404冊)・酒井家資料(129点)・前橋祇園祭礼絵巻(二巻)。

(2班中央消防署: 6施設)

神明宮の甲冑・奈良三彩・東福寺鈔口、松平藩主画像他一件、旧蚕業試験場事務棟、上泉郷藤村上泉文書・上泉の獅子舞、石造薬師三尊立像

イ 防火訓練

三夜沢町「赤城神社」を会場とし、本殿北西の山林が、参拝者のタバコの投捨てにより出火し延焼拡大の危険ありとした防火演習が行われた。群馬県防災航空隊のヘリコプターの出動や猛火から負傷者の救出演習、担架に載せて病院へ搬送するなど実際さながらの訓練も行われた。

○平成21年1月25日(日)

午前10時00分から午前11時00分まで

会 場 前橋市三夜沢町114番地

三夜沢「赤城神社」

赤城神社内にある指定物件

- ①国美術品勾玉②県史跡標石③県重文
神社本殿内宮殿④県重文神社本殿及び
中門⑤県記念物神社たわら杉⑥県重文
神社古文書⑦市重文神社神代文字の碑
⑧市重文赤城塔⑨県重文神社純門⑩市
記念物三夜沢のブナ⑪市重無太々神楽
計11件

参加機関

前橋市消防本部、各消防署、前橋市消防
団第五方面団(第16・17・18分団)、
群馬県防災航空隊、群馬県中央生コンク
リート協同組合、三夜沢赤城神社氏子、
三夜沢町自治会(演習参加者105名)

(3) 刀剣の手入れ

本市が寄附受入を行った刀剣を良好な状態で保存するために、専門的な技術者による手入れを行った。手入れの実施時期は、例年9月と2月であるが、今年度は、年度当初に柏川歴史民俗資料館で刀剣展を開催したため、第1回目の手入れを撤収作業に合わせ、6月に実施した。

また、平成15年度に寄附受入をした刀の錆修のため、白鞘と鎬を新たに作成した。

(4) 前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を活用し、管理を前橋市シルバー人材センターに委託している。建物内に四展示室①欄所当時の様子を示す資料②はき立てから繭の出荷までの養蚕具③上州座器をはじめとして製糸業に用いる用具器械④機織り機や養蚕(信仰の資料)を設けて資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として活用・公開している。

本年度は、全国都市緑化ぐんまフェアが開

催されたため、15,137人の見学者があつた。



蚕糸記念館

(5) 総社資料館の管理・活用

平成20年度の開館日数は245日、来館者数は4,764人であった。本年度は、秋元歴史まつりの行列の年であり、また、JR主催の「駅からハイキング」もかさなったこともあり、まつり当日の来館者数は、過去最高の1,038人を記録した。一方、7~8月の学校が夏休みの期間に実施される青少年課主催の「スタンプラリー」が中止になり、例年この時期には1,000名程度の来館があるが、今年については70名程度の来館者数にとどまった。結果として、年間来館者数では、5,000名をきることになり残念な結果であった。今後の方針を再検討していかたい。資料館の来館者の中心は小学生で、天狗岩用水や昔の道具の学習、さらには古墳の見学を目的として、2,775人が訪れた。また市外小学校からの申し込みもあり、周辺市町村にもたいぶ周知され、活用の場になっていることが窺える。

毎年開催される秋元歴史まつりの文化財の展示は、館林市教委の協力の下、「無之字の槍」等秋元家に由来する貴重な品々やパネル等を中心に特別展示展として行った。また出土遺物の展示として「着海城」をテーマとした展示も行った。内容は、元経社着海遺跡群(14)のこれまで行われた調査報告や着海城についての展示を行い、解説をした。さらに、今回は富岡製糸場世界遺産伝導師協会の協力も頂き、「座縁り体験教室」も行い大変好評であった。

3月には、説明員市外研修として館林市で実施をした。尾曳神社所蔵の品々や資料館、史跡や指定文化財の見学を通して見識を深め、また、館林文化財ボランティアの会の皆さん交流会を持つことができ、意義ある研修となった。

資料館の施設管理の面では、事務室の蛍光灯

修繕、資料館入口の鍵野修繕、また資料館駐車場の案内看板の書き換えを行い、環境整備に努めた。



秋元歴史まつり開催の様子

- (6) 前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用
粕川歴史民俗資料館は、大胡・宮城・粕川地区などの赤城山南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。

今年度は3回の企画展を開催し、多くの市民に関心を持っていただくことをねらった。開館日数は218日、入場者数合計は1,765人を数えた。

日常管理としては、臨時職員を配置し、来館者への展示の案内、施設の管理などを行うとともに、警備保障や定期清掃などについては専門業者に業務委託をして、来館者に快適に見学ができるような配慮をした。

<企画展概要>

- ①「古代の鉄と前橋市所蔵の刀剣」
○期間 4/25~6/1
○内容 本市所蔵の刀剣を11年ぶりに公開。古代の製鐵遺跡の展示も行った。
○入館者数 1,765人
- ②「いろいろなハニワ・ヒトのカオ」
○期間 7/5~8/31
○内容 古代の人が埴輪や土器などに描いた人物や動物の表情に視点を当てて展示した。
- 関連企画
・勾玉づくり体験 7/27
・職員による展示解説 7/27、8/23
○入館者数 437人
- ③「前橋市域出土の須恵器
—前二子古墳築造前夜—」
○期間 10/1~3/15
○内容 赤城山南麓出土の古い段階

の須恵器を中心に展示。市民制作の埴輪や土器類も紹介した。

○入館者数 514人



「古代の鉄と前橋市所蔵の刀剣」展

- (7) 前橋市粕川出土文化財管理センターの管理・活用

発掘調査により出土した貴重な発掘物を収蔵、展示できる施設として、また、発掘調査、整理作業等の拠点として維持管理を行っている。

常駐していた職員等は、三俣町二丁目の保護課庁舎内に移り、施設は無人となった。施設内の警備保障、昇降機、空調機器点検、浄化槽点検等は、業務委託により引き続き管理を行っている。

- (8) 大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群について、史跡の日常管理を行うにあたり、石室入口の鍵開閉や出土遺物を復元展示した史跡の保守・点検・清掃等を行う者を地元から選出して、史跡管理業務を委託した。

群馬県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「古墳の語り部」が史跡案内等を行っている。

11月に開催された大室古墳群イベントでは、富岡製糸場世界遺産伝道師協会伝道師による座縁の体験を行い、多くの参加者を集めた。

- 管理業務実施日は以下のとおりである。

4月から11月まで:月曜日を除く毎日。
12月から3月まで:土・日・祝日。

前二子、後二子石室鍵開け 午前9:00
前二子、後二子石室鍵閉め 午後4:00

- 点検場所

1. 前二子古墳

3. 後二子古墳

4. 付小古墳

※清掃は石室開閉時に実施している。

○年末年始休業

1月27日(土)から1月4日(日)まで

(9) 大室公園民家園の管理・活用

民家園は、赤城型民家保存会という地元の組織に管理運営を委託している。平成20年度の開館日数は233日、民家園来園者数は配帳者の確認だけで4,147名となっている。

10月に開催された大室公園でのイベントでは、スタンプラリーの会場になるとともに、ふかし饅頭の体験会場とお茶会を開催した。

また、保全修理では、ポンプ小屋と井戸の屋根の葺き替え工事を行い、施設の保全に努めた。



井戸の修繕工事

(10) 臨江閣の管理・活用

平成20年度から臨江閣の所管について、生涯学習課から文化財保護課へ替わった。臨江閣はこれまで中央公民館の別館として利用されていたが、中央公民館の前橋プラザ元気2への移転により、施設が拡充されたことや、臨江閣が明治時代に建てられた市・県の指定文化財であり、建物の保護と文化財としての普及活用を主眼とするため、所管換が行われることとなった。

臨江閣の日常管理については、管理人を2名常駐させ、館内外の清掃と見学者の受付を行った。この管理人は、前橋市シルバーカー人材センターへ委託した。このほかに管理業務の委託では、消防設備保守点検、屋根清掃を業者へ委託した。なお、庭内の樹木は、全国都市緑化ぐんまフェアで公園整備改修をした結果、一括管理が効率的であると判断し、公園管理事務所へ管理をお願い

した。



臨江閣本館

施設の活用では、6月8日まで全国都市緑化ぐんまフェアで別館が前橋公園会場のひとつとして利用された。またこの期間中は、5月11日には前橋茶道会を中心となり第31回前橋市民芸術文化祭茶道茶会、5月29日・30日には第60回表千家同門会全国大会の茶会、5月23日には第17回ばら制定都市会議のレセプションが開催された。緑化フェア閉幕後は、秋を中心として5団体が茶会を開催した。この他11月27日に、国際交流事業で婦人団体が茶道や華道等日本文化を紹介する場として利用した。3月には、市民の寄贈による雛人形の展示、生涯学習課主催の事業で能舞台と和楽器の演奏などが行われ、来館者は800人以上あった。この他の活用として前橋フィルム・コミッションの活動の一環として群馬テレビとフジテレビのドラマ撮影が行われた。なお、臨江閣への平成20年度の入場者数は、緑化フェアの会場となったこともあり、87,933人であった。



全国都市緑化ぐんまフェア

2 整備事業

(1) 前橋市史跡整備委員会

平成18年度に、前橋市内に所在する整備を進める必要がある史跡について、整備に向けた基本方針を検討するために設立した前橋市史跡整備委員会は、平成19年度には対象となる各史跡の現状視察を行い現状把握と問題点の抽出を行い、また整備の可能性について検討した。

3年目の本年度は、昨年度までの検討内容を基に、各史跡について具体的な整備方針を検討する作業を行った。

① 第3回前橋市史跡整備委員会

ア 開催日及び会場

平成20年5月16日

前橋市中央公民館54学習室

イ 出席者

峰岸顧問、阿久津委員長、能登副委員長、右島委員、小島委員、飯森委員、県教育委員会文化財保護課、建設部長、財政課長、都市計画課長、管理部長、総務課長、事務局（文化財保護課）

ウ 内容

これまでの会議及び現地視察での検討内容をもとに、整備に当たっての必要な要件等についての検討を行い。平成20年度作業としての各史跡の整備検討会の開催日程等について協議を行った。

② 史跡整備検討会の開催

各史跡についての整備方針についての検討会は、下記の日程及び参加者で実施した。

ア 朝倉・広瀬古墳群整備検討会

（平成20年6月27日開催）

出席者：峰岸顧問、能登副委員長、右島委員、小島委員

イ 女堀整備検討会

（平成20年7月25日開催）

出席者：峰岸顧問、能登副委員長、小島委員、飯森委員

ウ 中世城郭整備検討会

（平成20年9月12日開催）

出席者：峰岸顧問、阿久津委員長、能登副委員長、飯森委員

エ 総社古墳群整備検討会

（平成20年9月12日開催）

出席者：峰岸顧問、阿久津委員長、能登副委員長、小島委員、飯森委員

③ 第4回前橋市史跡整備委員会

ア 開催日及び会場

平成21年2月20日

前橋市役所11F南会議室

イ 出席者

峰岸顧問、阿久津委員長、能登副委員長、右島委員、小島委員、飯森委員、教育長、管理部長、事務局（文化財保護課）

ウ 内容

整備検討会での検討を基に作成した、各史跡の史跡整備方針（案）について検討・協議を行った。また、来年度予定している史跡整備委員会の提言の作成スケジュールについて検討した。

④ 史跡整備検討会検討結果の骨子

ア 朝倉・広瀬古墳群整備検討会

朝倉・広瀬古墳群は早い時期の団地造成のために、内容不明の部分が多い。しかしながら、本古墳群の中核である天神山古墳や八幡山古墳は、前期古墳では東日本で最重要な古墳のひとつであり、その整備にあたっては、この古墳群が成立していた背景を整理・分析し、古墳群全体の内容を正確に把握したうえで、整備や利活用の方策を立てることが必要である。

イ 女堀整備検討会

見学と女堀学習の拠点となるガイダンス施設の設置と、見学コースの充実を図り、女堀を総体として理解できるような整備が望ましい。各地区それぞれに応じた整備手法が考えられるが、二之宮地区（女堀沼）は、整備の核となる地区と考えられる。

ウ 中世城郭整備検討会

大胡城・膳城の本格的整備に入るためにも、前橋市域の中世の基本構造把握のための資料整備を行い、大胡城・膳城について、また前橋市の中世世界について歴史的な位置付けを行う。

エ 総社古墳群整備検討会

総社古墳群の整備に向けて、総社古墳群を総体として捉えることを基本方針とする。「総社古墳群」としての国指定に向けた調査・研究を積み重ねていく。

（2）八幡山古墳と龜塚山古墳の整備

① 八幡山古墳

八幡山古墳前方部東側の土砂流出により

葺石が露出しており、今後も土砂の流出及び葺石の露出の恐れがあることから、国庫補助事業により整備工事を行った。

ア 工事概要

墳丘部崩落部分の客土、植生マットの設置

イ 事業費 2,299,500円
(内訳)

国庫補助金 1,139,000円

県補助金 342,000円

市負担金 818,500円

その基礎資料となる遺跡の現況測量図の作成を平成17年度から実施しており、これまでに本丸、二の丸、袋曲輪等の現況測量を完了している。本年度は本丸東側の馬出し曲輪周辺部分の測量を実施し、県指定範囲内の測量はほぼ完了した。

(測量図は16頁に掲載)



植生マット設置の様子

② 亀塚山古墳の整備

亀塚山古墳西側の柵支柱が腐食していることから、補修工事を行った。

ア 工事概要

柵支柱6本の交換

イ 事業費

189,000円

(3) 史跡の測量

① 講城跡の現況測量

業務名 講城馬出し曲輪周辺部平面測量
業務

実施期日 平成21年3月16日～27日

測量内容 本丸東側の、南北馬出し堀を含む
馬出し曲輪周辺の現況測量

対象面積 約4,800m²

柏川町膳に所在する群馬県指定史跡「講城跡」は、本丸・二の丸周辺の主要曲輪が現況で良好に遺存している中世城郭遺跡であり、その保存と活用については、前橋市史跡整備委員会でも取り上げられ、整備の方向性が検討されている史跡である。

講城については、整備を計画するにあたり



講城馬出し曲輪跡

② 蛇穴山古墳の現況測量

業務名 蛇穴山古墳現況測量業務

実施期日 平成21年3月16日～27日

測量内容 GPS測量による基準点の設営及び蛇穴山古墳墳丘部分の現況測量

対象面積 約1,660m²

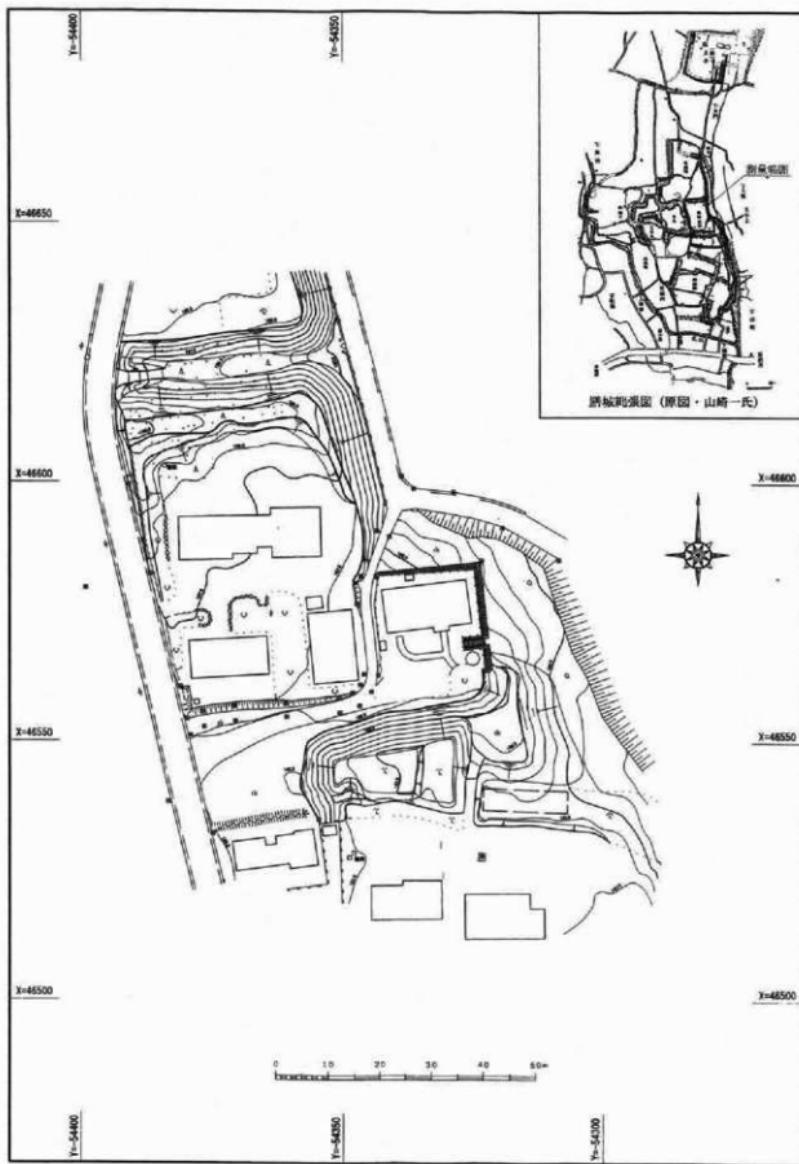
総社町総社に所在する、国指定史跡「蛇穴山古墳」は、昨年度旧総社小学校校敷地内で実施した試掘調査により、墳丘の西及び北側で貼石が施された外堤及び外周溝が検出され、これまで予想していた以上に精緻に構築された方墳であることが確認された。

しかしながら、昨年度確認した外堤及び外周溝と蛇穴山古墳墳丘及び石室の位置関係は、過年度の蛇穴山古墳の墳丘測量図では、座標及び高線の間隔などに精度を欠いていたため、正確に捉えることができなかった。また、今後に計画している宝塔山古墳・蛇穴山古墳の範囲確認調査において、より精確性を期するため、正確な基準点の設営と、精度の高い墳丘測量図が必要であった。

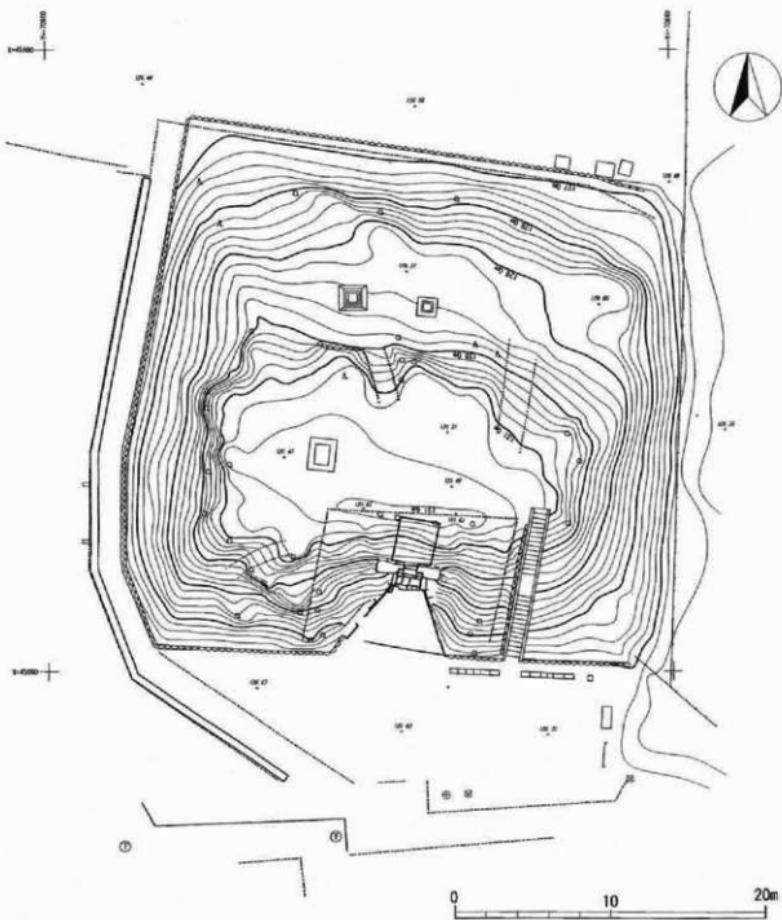
本年度の測量図をベースにして、今後の範囲確認調査結果を、順次盛り込みながら検討を加えることで、蛇穴山古墳及び宝塔山古墳の実態解明に繋がることが期待できる。

(測量図は17頁に掲載)

膳城馬出し堀周辺部 平面測量図



蛇穴山古墳の現況測量図



3 普及事業

(1) 前橋市・高崎市連携文化財展

前橋・高崎連携文化財活用事業として、文化財展「東国千年の都ー前橋・高崎の中世をあるくー女堀開削・箕輪城築城」を実施した。

① 内容

前橋・高崎両市の都市発展の基礎となった時代である中世にスポットをあて、考古資料を中心に展示する文化財展を開催した。

展示テーマ（主な展示遺跡）

- I 古代から中世へ（女堀ほか）
- II 中世の信仰とくらし（富田遺跡群、木ノ下遺跡、柳久保遺跡ほか）
- III 箕輪から高崎へ 既橋から前橋へ（前橋城遺跡、高崎城遺跡）
- IV 前橋城をあるく（前橋会場限定企画、前橋城に係る伝世資料等）

② 期日・会場

- ・前橋会場 平成21年1月9日～25日
前橋プラザ元気21
- ・高崎会場 平成21年1月31日～
2月9日
高崎シティーギャラリー
- ・関連展示 平成21年2月22日～
3月31日
かみつけの里博物館

③ 結果

前橋会場の見学者数は3,613人であった。関連企画として1月18日には「関東の華前橋城体感ツアー 前橋城をあるく」と題して前橋城に関連する寺社や遺構を巡り歩く見学会を開催し、46人の参加者があった。

前橋に関連する展示では、多くの人に好評を得ることができた。



前橋会場の様子

(2) 第36回前橋市郷土芸能大会

① 日時

平成20年11月22日

② 会場

前橋市民文化会館 小ホール

③ 内容

前橋市内の5団体と、近隣市町村からの招待団体の計6団体の公演が繰り広げられた。近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と研鑽を目的に、一昨年度より始められ、恒例行事となつた。平成20年度は、渋川市教育委員会文化財保護課に出演の推薦依頼（5月）をし、同委員会のご協力のもと渋川市指定重要無形民俗文化財「下南室太々御神楽（北橋町）」のご公演をいただいた。また、一昨年より実施され、恒例行事の一つになっている抽選会も実施した。これは大会における余興的な要素を持たせつつ、最後の公演まで活気を持たせるためや、より多くの方に会場に足を運んでもらうきっかけになればという狙いのもと実施されている。今年度は、さらに郷土芸能の「つながり・広報活動」という目的を加え、本市だけに限らず、市外からも協賛企業を募り、市内外19の企業・団体からご協賛を頂いた。当選本数も、約95本となり、盛大に抽選会を開催することができた。これらの取り組みにより、観客の公演ごとの増減が少くなり、最後まで鑑賞して下さる方もかなり増え、近隣市町村の団体の招待及び抽選会の効果は十分にあった。

大会全体の所要時間としては、各出演団体とも内容に力のこもったものが多く、セットの準備等で時間をとってしまった。また、抽選会においても、昨年度に比べ当選本数が増加したこともあり、時間超過してしまい来年度への課題として残った。



公演の様子

《出演団体一覧》

郷土芸能の名称	保存会名	所在地
前橋鳶木遣り・織振り	前橋鳶木伝統文化保存会「華幹会」	城東町
片貝神社太々神樂	片貝神社太々神樂保存会	東片貝町
六供お囃子	六供町おはやし会	六供町
下南室太々御神樂	下南室太々御神樂保存会	渋川市北橘町
二之宮の式三番叟	二之宮町無形文化財保存会	二之宮町
月田近戸神社の獅子舞	月田獅子舞保存会	柏川町月田

(3) 第25回全国都市緑化ぐんまフェアの対応

① 敷島公園会場 前橋市蚕糸記念館

緑化フェア開催にあわせて、蚕糸記念館内展示物をリニューアルした。また、富岡製糸場世界遺産伝道師協会の協力により、座縁の体験を11回実施し、434人の参加があった。

さらに、農林省退職者の会「からたち会」の協力により、蚕糸記念館(事務棟)が果たしてきた歴史的役割や展示物の説明が行われた。

② 前橋公園会場 臨江閣

臨江閣では別館を利用し、各種催しが開催された。1階洋間では臨江閣シアターとして、県内各地の郷土の映像を流し、群馬県の紹介をした。和室では、盆栽展、いけばな展などの展示を行い、1週間単位で入れ替えをした。来館は1階のみの見学として、2階は運営職員の控え室となった。

開催中の催事として、5月11日に第31回前橋市民芸術文化祭茶道茶会、5月29日・30日には第60回表千家同門会全国大会の茶会、5月23日には第17回ばら制定都市会議のレセプションが開催された。このレセプションは、臨江閣の歴史を踏まえ、迎賓館としての利用をされ、晩餐会ではマンドリン演奏なども行い、駐日ブルガリア大使をはじめ、会議出席者をもてなした。

この他に本館では、今回の行事の開催に合わせ、臨江閣建設の時代から現在までの前橋市の発展を紹介する展示を行い、見学者に備えた。展示内容は臨江閣とゆかりのある群馬県令掛取素彦の解説、前橋の近現代史の紹介、皇族の来橋等、新たに展示パネルを設置、歴史資料の展示をした。そして来館者への質問に対応するため、土日祝日は前橋観光ボランティア会とと

もに本課職員を配置し対応した。



臨江閣本館の来館状況

③ まえばしの歴史と郷土展

前橋市の歴史や文化を幅広く紹介する企画である。

前期(古代～近世)・後期(近代～産業など)の2期に分かれており、本課では主に前期の展示内容につき協力を行った。本市所有の資料のほか、所有者の協力により、普段は非公開の市指定重要文化財なども展示することができた。

その他、展示パネルの原稿執筆や画像データの提供を行った。

- 日程 4/19～5/6 (前期)
- 会場 前橋プラザ元気21にぎわいホール
- 主な展示資料
 - ・埴輪／大室古墳群、白藤古墳群他
 - ・绳文土器／苗ヶ島大畠遺跡他
 - ・大型石製品レプリカ／山王庵寺(国史跡)
 - ・前橋城闇連の遺物
 - ・伯牙弾琴鏡(市重文)
 - ・八幡宮文書(同上)
 - ・前橋藩主松平家軍配、奉納能装束一式(同上)
 - ・酒井重忠画像(同上・写真)
 - ・松平藩主画像(同上・写真)
 - ・神明宮の甲冑(同上)
 - ・立石諱訪神社の獅子舞(市無民)の衣装・道具

(4) 普及啓発

① 文化財探訪

この事業は、郷土の文化財や伝統芸能等を市民の皆様に広く知っていただくことを目的に、平成15年度より開始した。平成20年度は、8月、11月に実施、このうち第2回目は、平成21年5月5日に合併を予定している勢多郡富士見村の見学案内を実施した。

(第1回目)

日 時 8月4日(月)13時～16時30分
案 内 文化財保護課職員、前橋文学館説明員

参加者：11名

コース：近代前橋に関連した施設

陸江閣→萩原朔太郎記念館→前橋市蚕糸記念館→水道資料館



水道資料館での見学風景

(第2回目)

日 時 11月6日（木）13時～16時30分

参加者 31名

コース 上武国道発掘調査現場、富士見村指定文化財

群馬県埋蔵文化財調査事業団の発掘調査現場
(上細井町)→時沢の夫婦松→旧小暮一の鳥居
→横室の大カヤ→横室の歌舞伎衣裳



発掘調査現場の見学風景

② 出張授業「おもしろ文化財教室」

小中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本郷職員が講師として授業を行うものである。依頼を受けた、学校の担当教諭と事前打ち合わせを行い、その中で、授業のねらいや留意点などをできるだけ詳細に確認し、児童・生徒たちにとって充実感・達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、11校 823名に対応した。

《実施概要一覧》

実施日	学校名	学年	実施内容（実施場所）
5/14	月田小5年		月田の古墳および歴史について
5/29	宮郷第2小		大室古墳群見学
6/3	柏川小6年		大室古墳群見学

6/4	附属小5年	前橋の歴史（本郷および臨江閣）
7/3	元総社南小6年	大室古墳群見学
7/8	柏川小4年	昔の道具見学・体験
7/15	月田小5・6年	土器づくり
9/9	荒砥中1年	大室古墳群見学
10/9	元総社中希望者	地域ふれあい授業（山王廃寺・発掘体験）
10/30	大胡東小4年	昔のくらし（柏川資料館）
1/16	大胡小6年	円筒埴輪づくり

③ 郷土芸能映像記録保存（DVD作成）

郷土芸能映像記録保存事業は、平成8年度から始まり、昨年度までに14芸能の撮影を行った。当初は、一芸能づつ撮影を行っていたが、平成18年度の大胡・宮城・柏川の合併とともに二芸能ずつ撮影されることとなり現在に至っている。今年度は、11月29日に御靈神社太々神楽、12月13日に立石諏訪神社の獅子舞の撮影を行った。



撮影の様子

④ 文化財資料の貸出

今年度も出版社等から依頼を受け、写真資料等の貸し出しを行った。

主な貸し出し資料と貸し出し先は、以下の通りである。

貸し出し資料	貸し出し先
松平藩主画像（ポジフィルム）	川越市立博物館 群馬県立女子大学文学部
前橋藩主松平家奉納能装束一式・同陣羽織・同軍配（ポジフィルム）	前橋観光コンベンション協会
前橋城土星（ポジフィルム）	㈱学習研究社 太田市教育委員会
山王廃寺塔芯礎（デジタルデータ）	みなかみ町教育委員会

上泉獅子舞（動画）	けやきウォーク前橋事務所
伊勢音頭（動画）	安中市教育委員会
下長磯操翁式三番叟（動画）	㈱エフエム群馬

⑤ 各種講座・文化財めぐり等への講師派遣

指定文化財や遺跡などについて市民が理解を深められるよう、本課職員や各資料館解説員、市民ボランティアが案内を行った。

○講師派遣

- ・対応団体数 25団体

- ・参加者のべ人数 882人

- ・説明、案内箇所等

大室古墳群 13回 隆江閣6回

蚕糸記念館、柏川歴史民俗資料館 各3回

大胡城 2回

総社資料館、前橋城、総社古墳群、山王廃寺（講演）、着海城（講演）各1回

○出前講座（生涯学習課事業）

本課として3つの講座を設定した。その他、団体からの要望により総社地区の古墳群についての講座を実施した。

- ・「明治のイギリス外交により見出された
大室古墳群」

1団体 20名

- ・「古代の東国に残いた華・山王廃寺」

1団体 30名

- ・「文化財のあらましと保護行政について」
(本年度の実績なし)

- ・「総社地区的古墳」

1団体 40名

⑥ 公民館・資料館連携事業

本年度からの新規事業。歴史や文化財に関する体験学習や講演等を各公民館や資料館と共に開催し、市民が郷土の文化財に直接触れ楽しみながら歴史を学習することで、文化財に対する意識の高揚を図るものである。講師として本課職員や市民ボランティア解説員が対応した。

	日時・主催	内 容	参加数
1	7月27日 9:30~11:30 柏川公民館	世代間交流・柏川の歴史を知ろう (埴輪づくり) 会場：柏川歴史民俗資料館	親子 12人

2	8月12日 9:00~12:15 芳賀公民館	世代間交流・埴輪のつくられた時代を知る会場：大室古墳群	親子 10人
3	8月23日 9:30~11:45 柏川歴史民俗資料館	「夏休み限定企画」関連・埴輪づくり	小学生 15人
4	9月4日 10:00~11:30 芳賀公民館	世代間交流・埴輪のつくられた時代を知る会場：大室古墳群	一般 40人
5	9月5日 9:00~12:15 芳賀公民館	世代間交流・埴輪のつくられた時代を知る会場：大室古墳群	一般 40人
6	9月9日 11:50~12:10 永明公民館	生涯学習奨励員研修会 会場：柏川歴史民俗資料館	奨励員 15人
7	9月24日 8:30~12:00 柏川公民館	地域づくり講座・ふるさとの史跡めぐり	一般 20人
8	9月30日 9:00~12:15 東公民館	世代間交流・史跡見学 会場：みなかみ市矢瀬遺跡他	高齢者 40人
9	10月14日 9:00~12:15 東公民館	世代間交流・史跡見学 会場：みなかみ市矢瀬遺跡他	高齢者 40人

⑥ 遊ぶ・知る・楽しむ 大室古墳群

～大室古墳群秋の公開イベント～

① 趣旨

整備が完了した大室古墳群では、前二子古墳より出土した遺物を市民の手によって復元し、石室開口時の状況を復元するプロジェクトが始動した。また市民ボランティア解説員による古墳案内活動も充実してきている。そこで、これらの成果の一端を披露し、併せて古墳めぐりや体験活動、地元団体による公演などを実施し、歴史遺産の活用促進と文化財の愛護精神の高揚を図ろうとするものである。

② 日時 10/28 10:00~15:00

③ 内容

○古墳めぐりスタンプラリー

○イベント会場

・勾玉づくり、火おこし体験

- ・座縁り体験
- ・公演（込皆戸式三番叟、ケーナサークル鳥と風、育英短大あげんぼう太鼓、城南地区八木節保存会、ウクレレ七福神、荒砥中吹奏楽部）
- ・市民ボランティア制作土器、馬具の展示
- 古墳案内（市民ボランティア解説員の会「大室 古墳（つか）の語り部」）
- 民家園会場
 - ・抹茶（大室茶道会）
 - ・ふかし饅頭体験（宮城老人会女性部）
- 観光物産、農産物等の販売

④ 結果

- 参加者数 1,635 名。
- イベント会場を設定し、体験活動や公演などの企画を実施したことで、多くの市民に参加していただけた。
- 多くの地元団体に積極的な協力をいただき、企画の幅が広がるとともに、地域に密着したイベントになった。
- 以上、多くの幅広い年齢層の市民に楽しんでいただけた。



イベント会場での勾玉づくり

(7) 前二子古墳石室復元市民プロジェクト

市民ボランティアの手により、国指定史跡・前二子古墳の石室を、発掘当時 1878 年の状態に復元する。今年度は 3 年計画の 3 年次にあたり、装身具（ガラス玉、鏡）を制作した。

① 7月24日

実行委員会総会

・委員 12 名、監事 1 名、顧問 3 名

② 9月1日～9月22日

広報まえし、ホームページ等でボランティアを募集

・63名の応募・採用（2コース応募可）。

③ 10月3日他計8回

実行委員スタッフ、職員による打ち合わせや試作

・平出豊顧問アトリエ（安中市）他

④ 10月4日

オリエンテーション

・「大室 古墳の語り部」による古墳案内、活動内容の説明他

⑤ 11月2日～5日

ガラス玉制作ワークショップ

・会場 総合福祉会館 調理実習室他

・制作数 2,000 点以上が完成

⑥ 11月29日～12月3日

鏡制作ワークショップ

・会場 文化財保護課 東会議室

・制作数 石膏鑄型 34 点他

⑦ 2月7日

鏡鋲込み 1（低融点金属使用）

・会場 文化財保護課 東会議室他

・制作数 23 点が完成

⑧ 2月21日

鏡鋲込み 2（青銅使用）

・会場 平出豊顧問アトリエ

・制作数 3 点が完成

⑨ 3月15日

完成記念考古学講演会

・会場 前橋プラザ元気 21 3階ホール

・講演

「大室古墳群の国際性 一前二子古墳の横穴式石室と副葬品を通して」
右島和夫先生（県文化財保護審議会委員）

・参加者数 120 名

⑩ 3月16日～順次 装身具制作品の展示

・会場 文化財保護課 1階ギャラリー 他



鏡制作ワークショップ（石膏型づくり）

(8) 大室古墳群市民ボランティア解説員の育成

整備事業の終了した大室古墳群（国指定史跡）について、市民の視点に立った利活用を図るべく、市民ボランティア解説員の会「大室 古墳（つか）の語り部」が活動を開始し 3 年目にあたる。会員主体での運営を目指し、見学会の自主運営を試みたほか、年度末には今後の活動計画や組織・役割分担についての話し合いが持たれた。

① 古墳見学会

- ・3回実施（7/19、7/6、11/15の午前中）
- ・見学者 計110名
- ・大室公園民家園にボランティアが待機、見学希望者を随時案内した。11/15は会員の運営による。

② 自治会、歴史爱好者団体等への案内

- ・11団体へ実施
- ・見学者 計251名

③ 各イベントでの案内

- ・10/26 大室古墳群イベント
- ・10/6 「前二子古墳石室復元市民プロジェクト」オリエンテーション

(9) 文化財保存団体育成補助

総社地区に残る文化財の説明板や標注の設置を継続的に行っている団体や市内の各種の郷土芸能保存団体に補助金を交付した。また、県指定文化財「三夜沢赤城神社本殿及び門」が麻痺と鳥獣害により損傷が著しかったため、また県指定文化財になっている産泰神社の本殿及び神門の屋根飾り物が腐食して落下する恐れがあったため、見学者の安全の確保と文化財の保存と維持を目的として、補助事業での助成を行った。交付対象団体は、以下の通りである。

- 総社地区史跡愛存会
- 前橋市郷土芸能連絡協議会
- 宗教法人 三夜沢赤城神社
- 宗教法人 産泰神社
- 阿久沢家住宅

(10) 山王庵寺範囲内容確認調査現地説明会

① 日 時

平成20年11月16日（日）

午前10時～午後3時

② 場 所

前橋市総社町総社 2410-1 (ほか)

（山王庵寺範囲内容確認調査現場等）



現地説明会風景

③ 来場者数

110名

④ 内 容

平成20年度に発掘調査を行った塔跡や南回廊跡の調査区を中心とした解説ポイントをめぐりながら、調査の内容や山王庵寺の概要について解説を行った。遺物展示では、これまでの調査で出土した塑像や瓦等の展示を行った。

⑤ 成 果

当日は雨が降ったりやんだりと、天候には恵まれなかつたものの、100名を超える来場者がいたことは大きな成果であった。地元の地区への公演、近隣小中学校へのチラシ配布のほか、市広報やホームページに情報を掲載するなど、積極的な広報活動が功を奏したと思われる。

山王庵寺の現地説明会は、平成18年度の調査開始時から継続的に開催しており、今回で3回目であった。来場者から「毎年見に来ている」といった声が多く聞かれ、また、アンケート結果からもリピーターが多いことが分かり、この事業が市民の間で定着しつつあることがうかがえた。発掘調査の成果を現地で公開するということは、その活用や普及を図るうえで大きな意義があり、今後も継続的に行っていくことが重要であろう。

⑥ 来場者への主なアンケート結果（集計数55）

Q. 山王庵寺の現地説明会に来たことは？

A. 初めて15人、ある24人

Q. 住んでいるところは？

A. 総社・元総社地区25人、その他市内14人
県内13人、県外3人（埼玉1、神奈川2）

Q. 年齢は？

A. 20才以下0人、21～41才7人
41才～60才14人、60才以上34人



現地説明会パンフレット

4 埋蔵文化財発掘調査事業

平成20年度埋蔵文化財発掘調査事業をよりかえて

(1) 発掘調査事業

詳細は、平成20年度埋蔵文化財発掘調査一覧表(26頁を参照)に記載した通りである。本市の埋蔵文化財発掘調査は、基本的に前橋市埋蔵文化財発掘調査団を活用して実施した。その調査団の調査体制は、職員2名1組、3班体制とした。このほかに民間発掘調査機関を導入し、発掘調査をした。発掘調査件数は20件で、調査団が5件、民間発掘調査機関が15件であった。総調査面積27,557m²で、直営9,066m²、委託18,791m²であった。

1) 山王廃寺…平成9年度の下水道工事に伴う立会調査によって塔本塑像群が出土した。さらに平成11年度、道路改良工事に伴い一部、塑像廐棄土坑について発掘調査を行った。この塑像群の発見が一つの契機となり、山王廃寺の重要性についてなお一層の認識が深まり、平成12年度に「山王廃寺等調査委員会」が発足した。委員会では平成17年度まで整備構想や調査計画の検討を行い、平成18～22年度までの5カ年事業として範囲内容確認調査を行うこととなった。

この調査によって今まで未解決であった主要伽藍配置の規模、内容、構造について解明がなされ、さらに平成20年3月に国史跡の指定範囲拡大への動きとなった。

平成20年度の調査によって、解明された点は以下のとおりである。

① 塔跡の調査…塔の基壇規模は1辺13.6mを測る。今回の調査でも基壇の再整備を行ったことが判明した。再整備後は瓦積基壇による化粧をとる。基壇の周囲には白色粘土が敷かれていた。さらに、白色粘土に玉石を敷いた雨落ち溝も確認できた。今回の調査でも富寿神宝2枚が白色粘土の下から出土した。

② 南面回廊の調査…昨年度の調査で東西規模が79.7mであることが判明した。南北規模については、回の調査で建物跡としたものが回廊である可能性が高くなった。したがって南北は82.4mと南北、東西ともほぼ正方形となる。

③ 金堂北側の建物跡…西面回廊の内側2.6m、金堂の北側10.5mに位置する。地形の規模は、南北7.5m、東西10.2m以上となり、東西棟の建物がみられる。

2) 南部拠点遺跡群試掘調査…南部拠点地区の試掘調査について、Aゾーン、Bゾーンについて実施した。試掘調査の面積はAゾーンが120,000m²、Bゾーンが170,000m²と広範囲であった。効率よく調査を行なせるため、調査区域全体にグリッド杭を40mピッチで植杭した。それを基に東西20mピッチ、南北を40mピッチでトレレンジを設定し、重機による掘削を行い、ジョレンによる精査を行い、

有無について図面を作成した。

Aゾーンの試掘調査は平成20年7月2日から8月12日までの期間に実施したが、天候不順のなか湧水との闘いの中で調査を完了した。その後、8月一杯、天候不順とゲリラ豪雨によって、調査区のほとんど冠水したため、気候が落ち着くまで待った。Bゾーンの試掘調査は平成20年9月1日から11月15日まで調査を行った。

調査の結果、近世、中世の溝や土坑、As-B下の水田が検出された。Hr-FA下やAs-C下の水田は確認できなかった。

3) 南部拠点遺跡群No.1・2…試掘調査の結果に基づいて、公共道路用地部分の調査を行った。調査の結果、平安時代の水田跡を調査し、この地に残された条里制の区画に沿った水田跡を検出した。

4) 元總社舊海遺跡群(20)～(25)…元總社舊海遺跡群の調査については、上野国府や国分尼寺などの施設の発見と解明、律令期の地域構造の解明が課題である。元總社舊海地区土地区画整理事業に伴い、平成11年度から開始された埋蔵文化財発掘調査も、平成20年度で10年目を迎えた。これまで関越自動車道と元總社市街地の間の水田と畑地の調査を進めてきたが、いずれも古墳時代から平安時代の堅穴式住居跡と舊海城の堀が検出された。国府に直接隣接した遺構や遺物は検出されていない。このことから、上野国府の中心施設である国府は、従来から言われている元總社神社の北方である宮舎様、御靈神社、舊海城本丸のあたりが候補地として想定している。

① 舊海(20)…国分尼寺の南に隣接した部分から土取り土坑や瓦敷遺構が検出された。この、瓦敷遺構は平成12年度の試掘調査によって「僧寺と尼寺を結ぶ石敷道路」と注目された遺構である。しかし、今回の調査によって僧寺と尼寺を結ぶ東西道路ではなく、尼寺から南東に延びる道路と変更となつた。

② 舊海(21)・(23)…舊海城の二の丸、鎌田屋敷の地点の調査であった。舊海城の堀割からは中世の貿易港である高級な褐釉や青磁製品が発見された。

③ 舊海(22)…弥勒遺跡に近接する保存状態の良い奈良・平安時代の集落跡の調査ができた。

④ 舊海(24)…讃岐時代中期・後期の住居跡を始め、奈良・平安時代の住居跡が検出された。

⑤ 舊海(25)…中世の青白磁梅瓶が2個体完全な形で出土している。しかし、耕作土中からの出土であり、遺構との関係が把握できなかったのは非常に惜しい。

5) 上綱井北遺跡群(1)…調査の結果、径15mの円墳が検出された。石室はすでに開口され、天井石も抜かれている状態であったが、両袖形石室には一部に角閃石安山岩を使用し、部分的な切石の石室が検出された。このほか古墳時代中期・後期

の良好な集落を検出した。特に榛名山噴出のテフラを堆積する住居跡が数軒、検出された。遺物や集落の時期決定をする好材料を提供した。

6) 六供遺跡群No.4…今回の調査区では平安時代の水田跡が検出された。この周辺からは過去の調査で水田跡が検出されていたため、水田の拡がりを追認できた。

7) 民間開発に伴う調査

① 南町市之坪遺跡…古墳時代前期を中心とした15軒の住居跡が検出された。県内において墓域から出土した古墳時代前期のパレス壺が住居跡から検出できた珍しい事例となった。

② 天神III遺跡…本地域は、関越自動車道の調査によって神社遺構が見つかった鳥羽遺跡などが存在する国府の重要区域である。今回の調査では、奈良・平安時代の住居跡12軒が検出された。また、住居跡から出土例の少ない八稜鏡が検出された。

③ 総社村東02遺跡…古墳から平安時代の20軒を超える住居跡が検出された。

④ 流庭No.1遺跡…調査の結果、縄文時代陥し穴2基を検出した。

⑤ 堀越甲真木II遺跡…平成17年、大胡町との合併時に調査を行った地点の東側の開発地。調査の結果、縄文時代の陥し穴2基を調査した。

⑥ 元総社荘海遺跡群(瀬下マンション建設)…平安時代住居跡を4軒調査できた。

⑦ 粕川町一日市宿後遺跡…古墳時代中期の住居跡4軒の調査ができた。

(2) 遺跡台帳整備事業

文化財保護法第95条に規定されている埋蔵文化財包蔵地を把握し、周知するための遺跡分布地図作成に向けて平成15年度より分布調査および資料整備を開始した。調査は前橋市全城を対象とし、調査地区を15ブロック(旧前橋12、旧町村3)に区分けし、さらに調査する1ブロックを一筆毎に分け詳細に現地踏査を行う。踏査・準備を詳細に行なうには、作業に従事する人数はもちろん日数も必要である。

現地踏査の準備として、過去の調査履歴の地図への落とし込み、踏査後に遺物、図面整理にあたる。平成23年度を目指とした「前橋市遺跡分布地図」刊行に向けて、豊富な経験と技術を有する臨時職員を雇用し、計画的かつ効率的に進めている。平成20年度は大胡地区と城南地区の未踏査部分について実施した。

【前橋市遺跡分布地図作成年次別計画】

平成15年度	城南地区(未完)
平成16年度	元総社・総社・清里地区
平成17年度	桂萱・永明地区
平成18年度	南橋・芳賀地区

平成19年度	東・上川瀬・下川瀬地区
平成20年度	大胡地区・城南地区
平成21年度	富士見地区
平成22年度	旧市内、前橋市遺跡地図原稿完成
平成23年度	前橋市遺跡分布地図印刷、配布

具体的な作業の内容は、以下のとおりに行った。

- ① 1/5000現形図に過去の調査履歴や指定文化財等を記入し、遺跡範囲の再検討および修正
- ② 現地踏査で採集した遺物の洗浄・注記、分類・集計など
- ③ 1/5000の現形図に踏査成果を整理し、遺跡分布地図の原因の作成および修正
- ④ 採集遺物の図化作業

なお、隣接市町村はすでに遺跡分布地図が出来上がっているため、隣接する市町村との協議も必要となってくる。今後、遺跡の範囲設定の基準が明確化が必要であるが、隣接市町村との整合を図って行く必要がある。

(3) 遺跡資料整備事業

本事業は、埋蔵文化財発掘調査によって記録された各種資料や出土遺物等の整備を行い、その成果を広く市民に周知することが目的である。具体的には、各種展示・パンフレットの作成、発掘調査要覧の作成である。埋蔵文化財資料の展示は、文化財展をはじめ元氣21、けやきウォーク、サンデンフォレスト、文化財保護課玄闇、粕川歴史民俗資料館、総社資料館、大室公園公園管理事務所ホール、市内各公民館や小中学校などに行っている。

① 普及パンフレット作成…小中学生を対象にした普及パンフレット「い・せ・きワールドin前橋」を印刷し配布している。

② 発掘調査遺跡要覧…旧3町村と新たに合併した旧富士見村で行った緊急発掘調査のうち報告書が作成されていなかった未整理発掘調査遺跡の遺物整理を行い調査要覧を作成する。さらに、それを本市の基礎資料にするとともに普及啓発の資料とすることを目的とする。

具体的な作業の内容は、遺物については、注記・接合・実測・トレース・拓本・版組・写真撮影を行い、遺構図面に関しては、全体図作成、遺構図作成など行った上で、編集・校正を行い、PDFファイル化を行った。

要覧作成の基本は、1遺跡6頁程度を基本としている。

一覧表・発掘調査抄録・解説文など…	2.5頁
位置図、周辺図、グリッド図、遺構全体図…	2.0頁
遺構全景写真、遺構写真、遺物写真…	1.5頁

平成20年度については宮城・粕川地区要覧(1)…50遺跡の整理とPDFファイル化を行った。

【発掘調査未整理遺跡数】

旧大胡町	6 8
旧富城村	1 7
旧柏川村	8 9
旧富士見村	1 7
合計	1 9 1

【要覧作成年次計画】

平成18年度	大胡地区要覧(1)…60遺跡 PDFファイル化
平成19年度	大胡地区要覧(2)…8遺跡 PDFファイル化
平成20年度	宮城・柏川地区要覧(1)…50 遺跡、PDFファイル化
平成21年度	宮城・柏川地区要覧(2)…56 遺跡、PDFファイル化
平成22年度	富士見地区要覧…17遺跡、PD Fファイル化

③ 発掘調査遺跡全体図集成…数年時にわたる発掘調査遺跡の調査成果図面の集成作業も必要である。元総社蒼海遺跡群については集成作業が逐次行われているが、他の遺跡群については、最終年度報告にあわせて集成を行うようにしている。旧勢多郡4町村の埋蔵文化財発掘調査要覧の作

成作業を進めているが、今後は旧前橋市域の昭和54～56年度の埋蔵文化財調査成果についても一部未整理なものが存在するため同じ作業に取り組んでいかなければならない。

(4) 開発に伴う事前協議

開発に伴う事前協議と遺跡地図データのG I S化…合併による市域の拡大に伴い増加の一途を辿っている。月平均150件以上、年間にしても1,800件もの協議に対応した。このうち1,000m²を超える大規模な開発や周知の遺跡や隣接するもの、上野国府や山王魔守、古墳など重要遺跡については試掘調査を行った。試掘件数53件であり、このうち調査に移行したものは2件であった。このほか立会調査が24件であった。今後、開発協議に迅速に対応するために、遺跡地図の再整備とG I S活用を早急に進める必要がある。

【遺跡地図の前橋市統合型G I S搭載】

平成20年度	データ項目入力作業 (156遺跡、指定文化財)
平成21年度	データ項目入力作業
平成22年度	データ項目入力作業
平成23年度	データ項目入力作業
平成24年度	データ項目入力作業

平成20年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺跡名	コード	代表地番	調査面積	方式	調査原因	調査期間
1	元総社蒼海遺跡群(20)	20A130-20	元総社町1805-4	4,351	直	区画整理	20.5.7-12.25
2	元総社蒼海遺跡群(21)	20A130-21	元総社町2171	1,178	委	区画整理	20.10.7-12.26
3	元総社蒼海遺跡群(22)	20A130-22	元総社町1312-3	1,362	委	区画整理	20.10.7-21.2.6
4	元総社蒼海遺跡群(23)	20A130-23	元総社町1883-1	1,313	委	区画整理	20.11.4-21.1.20
5	元総社蒼海遺跡群(24)	20A130-24	元総社町1715-2	1,665	委	区画整理	21.1.7-2.12
6	元総社蒼海遺跡群(25)	20A130-25	元総社町2049-2	232	委	区画整理	20.12.26-21.2.10
7	山王魔寺	20A135-21-~2	總社町總社2380	350	直	範囲確認	20.9.1-12.17
8	上細井北遺跡群(1)	20B16	上細井町66-1	4,162	直	土地改良	20.8.18-21.2.10
9	南部概点地区遺跡群No.1	20G61	鶴光路町360-1	6,970	委	区画整理	20.10.28-21.1.30
10	南部概点地区遺跡群No.2	20G62	下阿内町380-1	9,092	委	区画整理	20.10.30-21.2.20
11	南町市之坪遺跡	20H44	南町4-46-1	120	委	住宅建設	20.6.25-7.11
12	天神里遺跡	20A141	元総社町825-1	172	委	集合住宅	20.6.2-6.15
13	總社村東02遺跡	20A142	總社町總社2056	178	委	住宅建設	20.12.25-21.1.23
14	柏川町一日市宿後遺跡	20K2	柏川町一日市175-7	599	委	道路改良	20.11.26-12.26
15	庵野No.1遺跡	2016	淺野町943-1	1,500	委	工場建設	20.4.21-5.9
16	堀越甲真木II遺跡	2017	堀越町579-2	1,500	委	工場建設	20.6.16-7.4
17	元総社蒼海遺跡群	20A140	元総社町1429-1	130	直	マンション建設	20.5.15-6.6
18	六供遺跡群No.4	20H46	六供町741-5	326	委	区画整理	21.2.10-3.26
19	五代伊勢宮遺跡(2)	20C46	五代町1075-1	1,350	委	道路改良	20.10.10-12.13
20	山王町一丁目No.1遺跡	20G63	山王町1-20-7	73	直	集合住宅	20.12.9-12.11
							36,623

平成20年度 埋蔵文化財報告書一覧表

順序	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日	備考
1	元総社蒼海遺跡群(20)	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.3.19	
2	元総社蒼海遺跡群(21)	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.3.6	
3	元総社蒼海遺跡群(22)	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.3.6	
4	元総社蒼海遺跡群(23)	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.3.12	
5	元総社蒼海遺跡群(24)	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.3.19	
6	元総社蒼海遺跡群(25)	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.3.16	
7	上郷井北遺跡群(1)	上郷井北遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.3.19	
8	五代伊勢宮遺跡(2)	五代伊勢宮遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.2.27	
9	南部拠点地区遺跡群No.1	南部拠点地区遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.3.19	
10	南部拠点地区遺跡群No.2	南部拠点地区遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.3.19	
11	柏川町一日市宿後遺跡	柏川町一日市宿後遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	21.2.27	
12	南町市之坪遺跡	南町市之坪遺跡	前橋市教育委員会	20.9.15	
13	天神田遺跡	天神田遺跡	前橋市教育委員会	20.8.15	
14	山王廟寺	山王廟寺	前橋市教育委員会	21.2.23	
15	前橋城	前橋城	前橋市教育委員会	20.6.30	

平成20年度 試掘調査一覧表

番号	所在地	開発面積 m ²	開発原因	調査年月日	調査結果
1	綾日町三丁目	965.90	保育所建設	4月21日	埋蔵文化財検出なし
2	南町四丁目	527.41	集合住宅建設	4月22日	古墳~平安時代墓落
3	北代田町	2,833.00	宅地造成	5月1日	古墳時代水田
4	二之宮町	900.00	宅地造成	5月13日	埋蔵文化財検出なし
5	元総社町	1,311.60	集合住宅建設	5月15日	奈良・平安時代住居
6	堀越町	2,566.00	工場建設	5月21日~22日	鶴文時代施設
7	元総社町	1,385.64	集合住宅建設	5月23日	奈良・平安時代施設、精錬炉係帯跡
8	元総社町総社	1,323.00	宅地造成	5月27日	埋蔵文化財検出なし
9	小屋原町	18,809.00	店舗建設	6月10日~11日	埋蔵文化財検出なし
10	青削子町	4,237.00	有料老人ホーム建設	6月19日	時期不明施設跡、旧河跡跡
11	総社町総社	1,434.00	事務所・倉庫建設	6月24日	奈良・平安時代住居
12	鶴路町他	120,000.00	土地収回整理事業	7月2日~8月12日	古墳時代集落、平安時代水田等
13	堀越町	120,000.00	道路建設	6月27日~30日	鶴文時代施設
14	上新田町	5,616.38	宅地造成	7月9日	埋蔵文化財検出なし
15	小屋原町	1,650.00	道路建設	7月10日	埋蔵文化財検出なし
16	上郷井町	216,490.00	土地改良事業	7月28日~30日	古墳~平安時代墓落
17	横沢町	3,357.00	宅地造成	7月31日	埋蔵文化財検出なし
18	荒口町	3,366.00	宅地造成	8月1日	埋蔵文化財検出なし
19	苗ヶ島町	801.18	農地用施設建設	8月7日	埋蔵文化財検出なし
20	青削子町	1,683.07	宅地造成	8月11日	埋蔵文化財検出なし
21	馬場町	3,120.00	薬天寺付属等	8月20日	埋蔵文化財検出なし
22	鶴路町他	170,000.00	土地収回整理事業	9月11日~11月15日	古墳時代集落、平安時代水田等
23	源田町	712.33	集合住宅建設	9月17日	平安時代水田
24	柏川町一日市	4,000.00	道筋建設	9月24日~25日	古墳時代住居
25	総社町二丁目	1,319.89	宅地造成	9月29日	古墳時代廻跡
26	総社町城野	1,116.00	店舗建設	10月21日	人為的な構造なし
27	魚沢町	3,000.00	道路建設	10月29日	埋蔵文化財検出なし
28	富田町	10,000.00	道路建設	11月5日~6日	埋蔵文化財検出なし
29	轟毛石町	1,812.00	宅地造成	11月10日	埋蔵文化財検出なし
30	六供町	600.00	道路建設	11月17日	埋蔵文化財検出なし
31	上新田町一丁目	517.77	集合住宅建設	11月18日	平安時代水田
32	上新田町	7,843.28	宅地造成	11月20日~25日	近世溝跡
33	元総社町総社	622.92	社員寮建設	11月27日	平安時代住居
34	六供町	2,500.00	道路建設	12月3日~4日	平安時代水田
35	石崎町五丁目	739.00	集合住宅建設	12月5日	埋蔵文化財検出なし
36	柏川町一日市	900.00	道路建設	12月24日	中世住居、近世舟戸跡
37	泉沢町	700.00	道筋建設	12月25日	埋蔵文化財検出なし
38	川口町納戸戸	166.25	拂寺電鉄系局構設	12月25日	埋蔵文化財検出なし
39	日吉町三丁目	8,619.00	店舗建設	1月8日	埋蔵文化財検出なし
40	山王町	1,910.04	介護老人ホーム建設	1月15日	古墳時代住居
41	川原町	1,358.15	診療所建設	1月16日	時期不明大佛
42	上郷井町	3,309.00	土地改良事業	1月19日	古墳~平安時代住居
43	荒牧町	1,155.98	集合住宅建設	1月28日	埋蔵文化財検出なし
44	羽ノ木町	10,000.00	道路建設	2月3日~5日	古墳~平安時代住居
45	堀越町	3,400.00	道路建設	2月13日	遺構は検出されず、漢文土器片検出
46	六供町	390.00	道路建設	2月19日	古墳時代住居
47	浅木町	1,350.00	道筋建設	2月24日	時期不明遺構
48	河原町	7,969.20	保養所建設	3月2日~4日	鶴文時代土坑
49	下増田町	41,341.00	清掃工場建設	3月10日~14日	埋蔵文化財検出なし
50	下新田町	987.12	集合住宅建設	3月12日	平安時代水田
51	総社町城野	5,492.81	宅地造成	3月17日~18日	埋蔵文化財検出なし
52	南袖町	700.00	市営住宅建設	3月23日	埋蔵文化財検出なし
53	元総社町	760.00	宅地造成	3月25日	古墳~平安時代溝跡

平成 20 年度 立会調査一覧表

所在地	開発面積 m ²	開発原因	調査年月日	調査結果
1 元総社町	10.00	土地区画整理事業	4月3日・6月2日・6月5日	奈良時代瓦、近世瓦検出
2 駒形町	549.00	個人住宅建設	4月21日	埋蔵文化財検出なし
3 柏川町深津	600.00	個人住宅建設	4月22日	埋蔵文化財検出なし
4 笹井町	1,804.00	テニスコート建設	4月23日	埋蔵文化財検出なし
5 六供町	670.00	宅地造成	4月30日	埋蔵文化財検出なし
6 二之宮町		水路側溝整備	4月30日	五輪塔検出
7 三俣町二丁目	659.69	集合住宅建設	5月7日	縄文時代土器片検出
8 嶺町	1,800.00	個人住宅建設	5月15日	埋蔵文化財検出なし
9 柏川町深津	300.00	個人住宅建設	5月19日	埋蔵文化財検出なし
10 平和町一丁目	3.00	宅地造成	5月26日	埋蔵文化財検出なし
11 下新田町		店舗建設	5月27日	埋蔵文化財検出なし
12 鼻毛石町	775.58	個人住宅建設	7月30日	埋蔵文化財検出なし
13 楠越町	1,095.00	医院建設	8月6日	埋蔵文化財検出なし
14 富田町	539.00	露天資材置場等	8月7日	埋蔵文化財検出なし
15 鼻毛石町	775.58	個人住宅建設	8月20日	埋蔵文化財検出なし
16 苗ヶ島町	330.00	個人住宅建設	8月29日	埋蔵文化財検出なし
17 泉沢町	26.00	送電線鉄塔基礎撤去	9月1日	埋蔵文化財検出なし
18 滝窪町	2,400.00	駐車場	9月12日	埋蔵文化財検出なし
19 朝倉町	1,300.00	児童館建設	9月18日～19日	埋蔵文化財検出なし
20 総社町総社	173.79	個人住宅建設	9月19日	古墳時代以前の溝跡
21 江田町	966.00	集合住宅建設	10月6日	埋蔵文化財検出なし
22 大友町二丁目	553.80	個人住宅建設	10月7日	埋蔵文化財検出なし
23 三夜沢町	747.00	携帯電話基地局建設	1月16日	埋蔵文化財検出なし
24 柏川町中之沢	5,000.00	搬入路造成	3月11日	埋蔵文化財検出なし

南部拠点開発 A・B ゾーン埋蔵文化財確認調査 (20G 60)

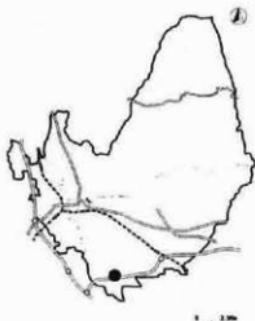


図 1 南部拠点地区の位置

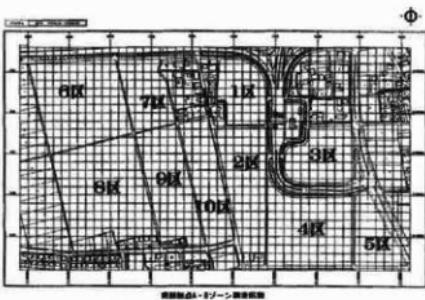


図 2 南部拠点開発 A・B ゾーン調査区図

Aゾーン埋蔵文化財確認調査の結果について

(1) 調査地（開発予定地）の地番及び面積

① 地 番 前橋市鶴光路町359-1・新堀町35-1・
下阿内町2他

② 面 積 約 120,000 m² (12ha)

※南部拠点開発A・Bゾーン 296,000 m²

(2) 試掘調査の面積

3,800 m² (トレンチ総延長 3,800m、幅 1m)

(3) 調査実施日

平成 20 年 7 月 2 日～8 月 12 日

(4) 調査担当者

山下 聰信・塙坪 丈夫・真下 晃・池田 史人・綿貫 綾子

(5) 調査の方法

調査開始に伴い、世界平面直角座標 (X : 37300 Y : 67400) を基点 (X0・Y0) として、X軸を東西方向、Y軸を南北方向、北西隅を基点とする4m四方のグリッドを設定した。方眼杭及びBM杭については、業者に委託し、方眼杭は40mピッチで、BM杭は80mピッチで打設した。調査にあたっては、面積が広大なため、調査区を1区から5区まで分けた。確認作業は、建物・道路配置計画に即して、東西に20mピッチで39本、南北に40mピッチで17本のトレンチを設定し、重機により浅間B軽石層までを掘削し、その後人手による精査をして遺構確認を行った。また、下層の遺構を確認するため原則40mごとに深掘を行い、浅間C軽石混土層上面及び下面で遺構確認を行った。発見された遺跡の記録保存として、各トレンチの平面図(1:100)及び土層断面図(1:20)を作成し、35mフィルム(モノクロ・リバーサル)及びデジタルカメラによる写真撮影を行った。

(6) 調査の結果

① 検出した遺構

	中～近世	平安時代	古墳時代	
			集落	水田
1区	○(溝)	○(水田・溝)	—	判定不可
2区	○(溝・星敷跡)	○(溝)	—	判定不可
3区	○(溝)	○(水田)	○(前期)	判定不可
4区	○(溝・星敷跡)	○(水田)	—	判定不可
5区	○(溝)	○(水田)	—	判定不可

凡例 ○…有 —…無

② 検出した遺物

1区 無

2区 近世陶磁器片数点

3区 古墳時代の土器片多数 奈良～平安時代の土器片数点

4区 奈良～平安時代の土器片数点 中・近世陶磁器片数点

5区 奈良～平安時代の土器片数点

(7) 調査所見

調査の結果、ほぼ前面にわたって遺構・遺物が検出できたことから、本調査地は遺跡地として認



図 3-15-2 トレンチ環濠星敷跡溝

(南西から)

定できる。遺跡の内容は、新しい時代からみると、中世～近世の遺構が全域にわたって点在する。次に平安時代の水田跡は、ほぼ全域に存在することが判明した。さらに古墳時代の遺構として、一部区域から生活域の存在がみられ、北関東自動車道の調査では古墳時代前期の水田跡の存在も判明していることから、再精査をすることによって解明されるものといえる。次に、各時代面毎に、調査成果についてみていく。

① 中世～近世の遺構（図7）

確認面が極めて浅いため、保存状況は良好ではなかった。しかし、3区に隣接する西田遺跡等の発掘調査では、この時期の施設（溝・屋敷跡など）が、確認されている。今回の試掘調査で特筆されるものは、3区と4区にまたがり検出された東西約50m、南北約60mの中世から近世にかけての環濠屋敷跡である。本地域に特有の遺跡といえよう。内部の施設と思われる遺構として土坑も僅かながら検出された。このほかに、中世から近世における溝状遺構が合計63ヶ所から検出できた。これらは、点在するものの、中世屋敷と有機的な関連を持つ水路の存在も考えられる。

現地表面から確認面までの深さは、0.15～0.5m程度と極めて浅いところに存在していた。また、それぞれの遺構の深さについては、0.5～1.6m程度と考えられる。

② 平安時代の遺構（水田跡）（図8）

西暦1108年に浅間山が大噴火を起こした。そのときに火山灰や軽石が群馬県下一帯に降下した。厚いところでは0.5mを超える地帯もあるが、本市域は0.2m前後である。これらの降下物については、浅間B軽石と呼ばれている。本調査区一帯からもこの浅間B軽石が一様に検出された。この軽石によって、今まで平安時代の水田跡が良好にパックされてきた。

今回の調査によって平安時代の水田跡は広く全域にわたって存在していたことが想定される。しかし、2区は昭和30年代の土地改良の事業によってこの面まで掘削を受けており、ほとんど残存していなかった。

全域からみると各区とも南に行くにしたがい、浅間B軽石の堆積は厚く水田跡の保存状況も良好であった。図8に示したとおり、濃い灰色は水田跡が良好に保存されている区域であり、薄い灰色は水田跡が良好ではないが保存される区域である。

水田面までの深さは、0.2～0.6m程度、浅間B軽石の残りは0.03m～0.05m程度であり、良好な地点では0.1mほど堆積していた。

また、図8に描かれた黒破線が平安時代の水田跡の畦の跡である。ほぼ東西、南北に水田が造られたことがわかる。この地帯一帯には律令時代に条里制が施行され、それらの残りがよく保存されていることが判明した。これらの条里は1町（約109m）毎に太い畦で区切り、その中をさらに細分して10mから20m程度の水田に区分けされるのが通常である。1区では、水田の用水路と考えられる溝跡3条を確認した。2区の4トレンチ西端では、水田耕作前の土坑を確認した。

③ 古墳時代の遺構（図9）

3区7-2トレンチでは、古墳時代前期の土器片が集中して分布する場所が確認された。隣接する西田遺跡からも同時期の土器の分布が確認されており、この時期の遺構が7-2トレンチ周辺に存在する可能性が高い。また、同じく西田遺跡の発掘調査からは、浅間C軽石混土層（4世紀前半）を耕作土とする水田跡が確認されているが、今回の調査では確認できなかった。ただ、耕作土である浅間C軽石混土層が本調査区全面にわたって堆積していることからみて、調査面積を拡げることによって検出される可能性がある。

Bゾーン埋蔵文化財確認調査の結果について

- (1) 調査地（開発予定地）の地番及び面積
 ① 地 番 前橋市鶴光路町 139-2・新堀町 24-7 他
 ② 面 積 約 170,000 m² (17ha)
 ※南部拠点開発 A・Bゾーン 296,000 m²

- (2) 試掘調査の面積
 4,248 m² (トレンチ総延長 4,248m、幅 1m)

- (3) 調査実施日
 平成 20 年 9 月 11 日～11 月 15 日

- (4) 調査担当者
 山下 肇信・塙坪 丈夫・真下 晃
 阿久津 真一・清水 亮介

- (5) 調査の方法
 調査開始に伴い、世界平面直角座標 (X : 37300
 Y : 67400) を原点 (X 0・Y 0) として、X 軸を東西方向、Y 軸を南北方向、原点を基点とする 4
 m 四方のグリッドを設定した。方眼杭及び BM 杭
 については、業者に委託し、方眼杭は 40m ピッチ
 で、BM 杭は 80m ピッチで打設した。調査にあた
 っては、面積が広大なため、調査区を 6 区から 10
 区に区分した。確認作業は、建物・道路配置計画
 に即して、東西に 20m ピッチで 44 本、南北に 40m ピッチで 14 本のトレンチを設定し、重機によ
 り浅間 B 軽石層までを掘削し、その後、人力による精査をして遺構確認を行った。また、下層の遺
 構を確認するため原則 40m ごとに深堀を行い、浅間 C 軽石混土層上面及び下面で遺構確認を行
 った。発見された遺跡の記録保存として、各トレンチの平面図 (1 : 100) 及び土層断面図 (1 : 20)
 を作成し、35m フィルムカメラ (モノクロ・カラーリバーサル) 及びデジタルカメラによる写真撮
 影を行った。

- (6) 調査の結果

検出した遺構



図 4 8 区 35-1 トレンチ埋没谷セクション(南から)



図 5 6 区 24-2 トレンチ大畦畔(南から)

	中～近世	平安時代	古墳時代	
			集落	水田
6 区	○ (溝・柱穴)	○ (水田・溝)	—	判定不可
7 区	—	○ (水田)	—	判定不可
8 区	○ (溝)	○ (水田)	○ (前期)	判定不可
9 区	○ (溝)	○ (水田)	—	判定不可
10 区	○ (溝)	—	—	判定不可

凡例 ○…有 —…無

- ① 検出した遺物

6 区 近世陶磁器片数点

7 区 奈良～平安時代の土器片数点 近世陶磁器片数点

8区 古墳時代の土器片多数 奈良～平安時代の土器片数点

9区 無

10区 無

(7) 調査所見

調査の結果、ほぼ全面にわたって遺構・遺物が検出できたことから、本調査地は遺跡地として認定できる。遺跡の内容は、新しい時代からみると、中世～近世の遺構が全域にわたって点在する。次に、平安時代の水田跡は、ほぼ全域に存在することが判明した。6区と8区では浅間B軽石の堆積が厚く畦畔が容易に検出でき、水田跡が良好に残存していることがわかった。6区では大畦畔を検出し、条里制に基づく坪境であると推定できた。さらに古墳時代の遺構として、一部区域から生活城の存在がみられた。北関東自動車道の発掘調査では、古墳時代の水田跡の存在も判明していることから、再精査をすることによって解明されるものといえる。次に、各時代面毎に、調査成果についてみていくたい。

① 中～近世の遺構（図10）

確認面が極めて浅いため、保存状況は良好ではなかった。6区は、23-2・24-2 トレンチでこの時期の施設の建物跡と思われる柱穴（ピット）が確認された。遺物については、6区・7区で近世陶磁器片が検出された。7区に隣接する村中遺跡の発掘調査で近世の施設（溝・屋敷跡など）が確認されていることからこの遺構と有機的な関連を持つ遺構の存在が考えられる。

現地表面から確認面までの深さは、0.15～0.9m程度と幅があるが、ほとんどの場所が0.15～0.50mと極めて浅いところに存在していた。また、それぞれの遺構の深さについては、0.5～1.0m程度と考えられる。

② 平安時代の遺構（水田跡）（図11）

西暦1108年に浅間山が大噴火を起こした。そのときに火山灰や軽石が群馬県下帯に降下した。厚いところでは0.5mを超える地帯もあるが、本市域は0.2m前後である。これらの降下物については、浅間B軽石と呼ばれている。本調査区一帯からもこの浅間B軽石が一樣に検出された。この軽石によって、今まで平安時代の水田跡が良好にバックされてきた。

今回の調査によって平安時代の水田跡は6区から9区で検出され、ほぼ全域にわたって存在していたことが想定される。6区と8区では、浅間B軽石の堆積は厚く水田跡の保存状況も良好であった。6区の24-2 トレンチ（X260・Y30）から東へ4.8mの地点では、大畦畔を検出した。幅は1m、高さは0.05mで横手油田遺跡の全体図と照合した結果、この遺跡のF区大畦畔の延長部分と推測された。図11に示したとおり、濃い灰色は水田跡が良好に保存されている区域であり、薄い灰色は水田跡が良好ではないが保存されている区域である。水田面までの深さは、0.2～0.6m程度、浅間B軽石の残りは0.03m～0.08m程度であり、良好な地点では0.18mほど堆積していた。

また、図11に描かれた白黒破線が平安時代の水田跡の畦の跡である。ほぼ東西、南北に水田が造られたことがわかる。この地帯一帯には律令時代に条里制が施行され、それらの残りがよく保存されていることが判明した。28-1 トレンチから南東に向かう部分とP-2 トレンチからは、浅間B軽石の堆積は確認されなかつた。昭和30年代の土地改良の事業によって、確認面が削平を受け消滅したと考えられる。

また、8区では、35-1 トレンチを北西から南東に走る埋没谷を確認した。埋没谷では、前橋市内でも数箇所の遺跡で発見されている浅間柏川テフラ（As-Kk 1128年）の堆積を確認した。また、この上層には植物が腐らずに土になったと考えられる黒色土（ビート層）も堆積していた。このことから、浅間柏川テフラが降下した後、この埋没谷には、腐植土層が形成された。

③ 古墳時代の遺構（図 12）

8 区 32-1・33-1 トレンチでは、古墳時代前期の土器片が集中して分布する場所が確認された。このため、この時期の遺構が 32-1・33-1 トレンチ周辺に存在する可能性が高い。

また古墳時代の前期は、浅間 C 軽石混土（4 世紀前半）を耕作土とする水田跡が検出されることがあるが、今回の調査では確認できなかった。ただ、耕作土である浅間 C 軽石混土層が本調査区全てに堆積していることからみて、調査面積を拡げることによって検出される可能性がある。

古墳時代後期では、古墳時代前期の土器片が集中して分布する場所でもある 32-1・33-1 トレンチで、様名ニツ岳浪川テフラ（Ihr-FA 6 世紀初頭）が 0.02m 程度堆積し、またその周辺のトレンチでもブロック状の堆積が確認された。隣接する横手油田遺跡の K・L 区からは、保存状態は良好ではないがこのテフラにパックされた水田跡が検出されており、周辺に存在する可能性がある。

南部拠点開発 A・B ゾーン調査区基本層序

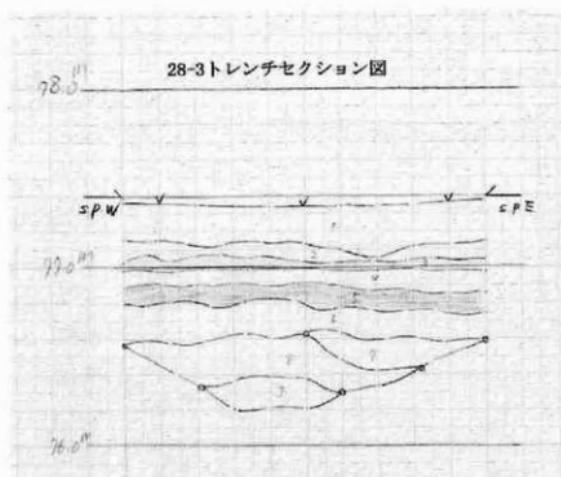


図 6 28-3 トレンチセクション図

1 現耕作土	しまり	粘性	
2 7.5YR4/2 灰褐色砂質土	○	×	酸化により層の下部では赤みがある
3 AS-B 軽石 純層			
4 10YR4/1 褐灰色質土	○	◎	白色粒 1% AS-B 軽石で覆われた田の床土
5 10YR4/1 褐灰色質土	○	◎	白色粒 1% 橙色ブロック 3% AS-C 混土層
6 10YR5/2 灰褐色粘質土	○	◎	橙・灰白ブロック 20 パーセント 特に粘性有り
7 10YR5/2 灰褐色粘質土	○	◎	火山粒を含む 橙・灰白ブロック 20 パーセント
8 10YR5/2 褐灰色質土	○	◎	火山粒を多量に含む
9 2.5Y7/1 灰白色粘質土	△	◎	非常に粘性がある 軽石を含む

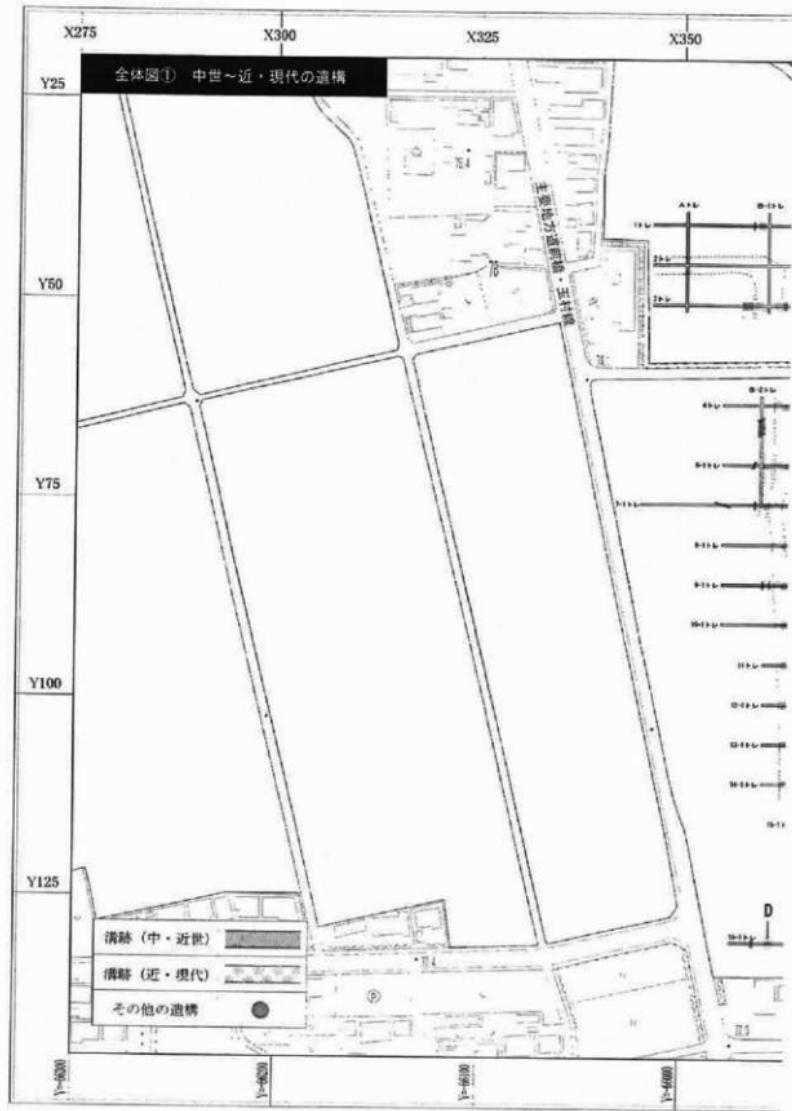
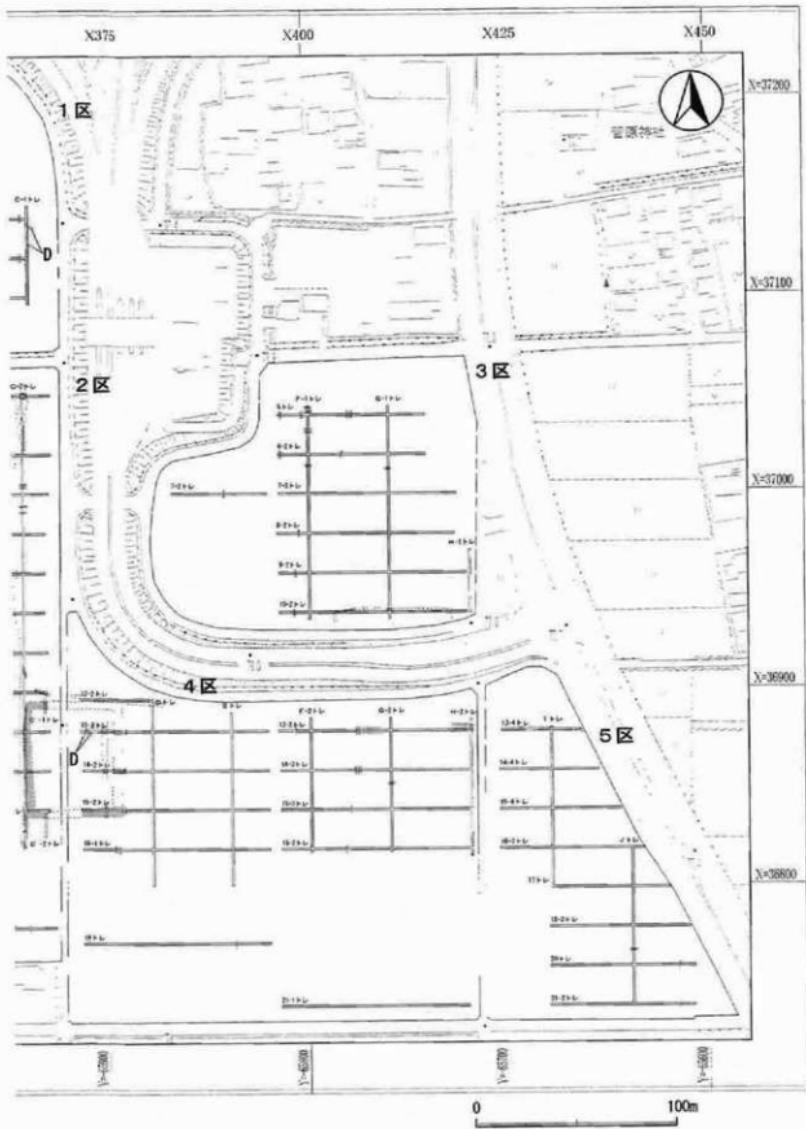


図7 Aゾーン中世～近・現代の遺構



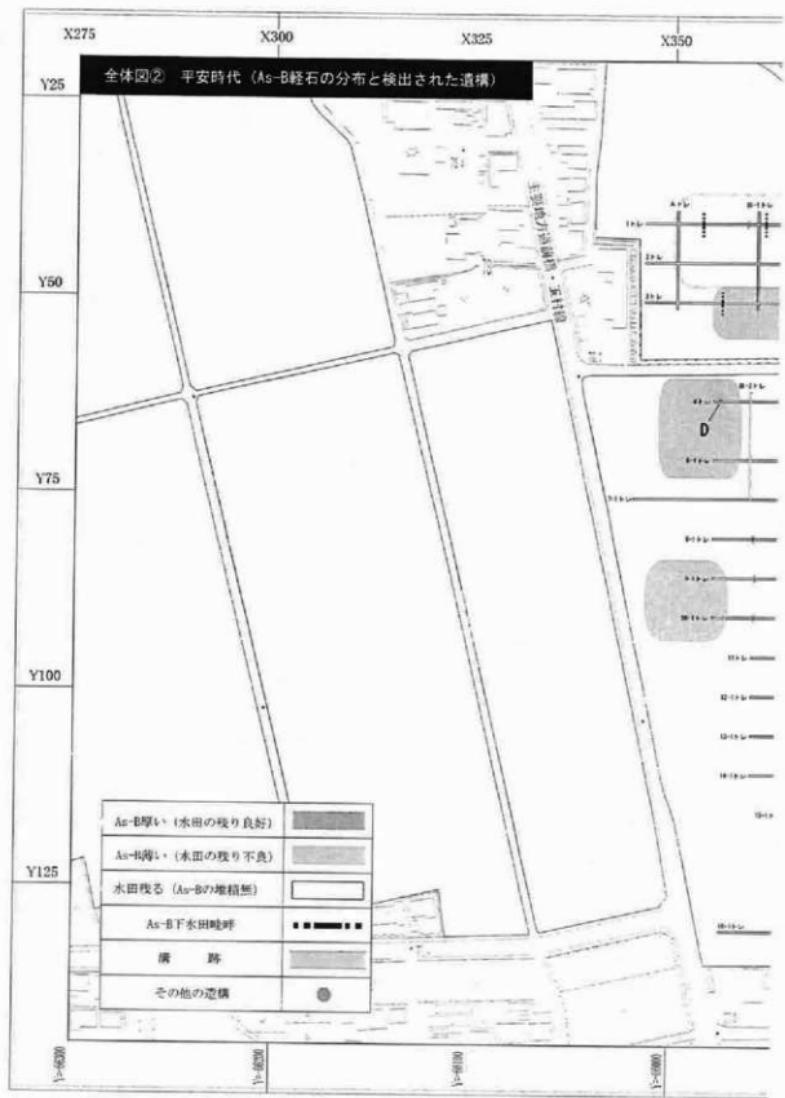
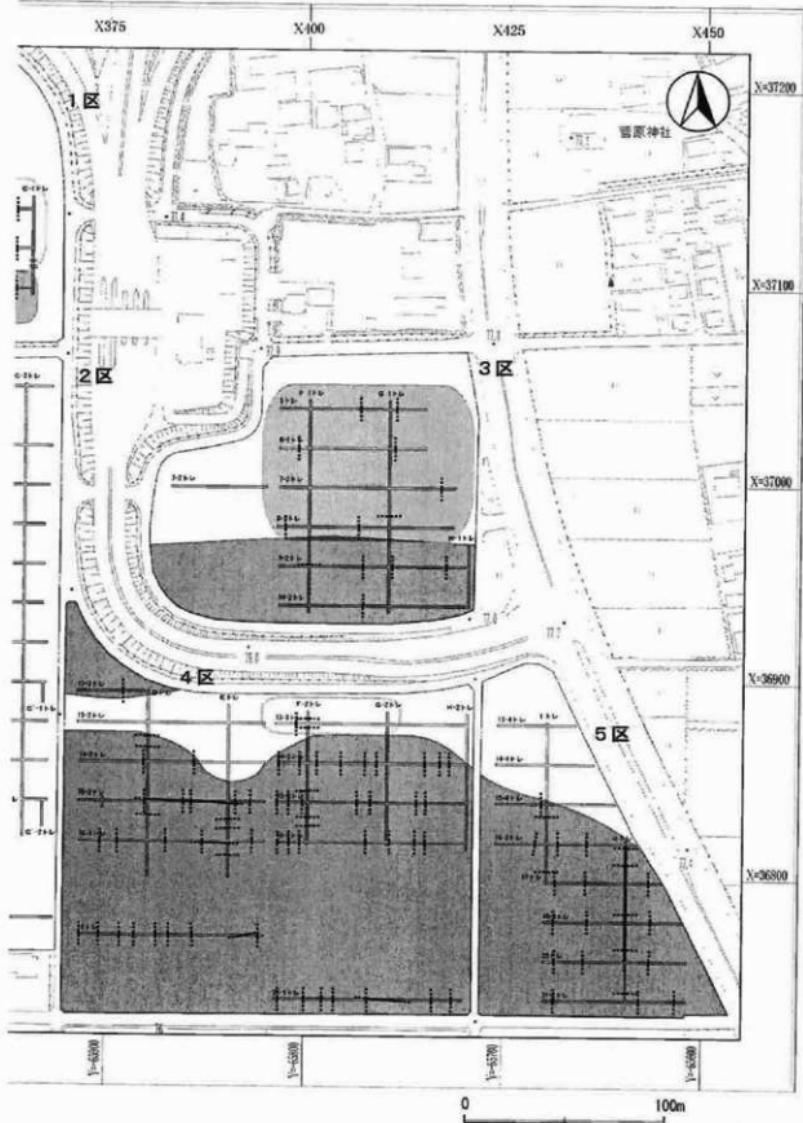


図8 Aゾーン平安時代 (As-B軽石の分布と検出された遺構)



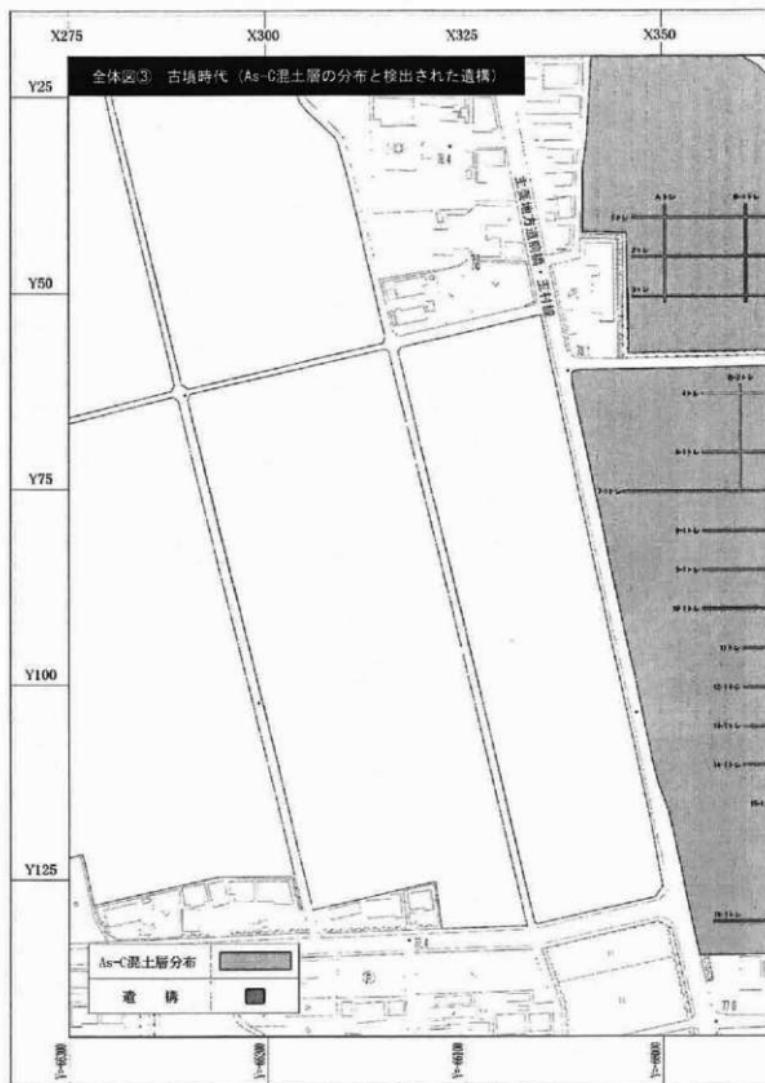


図9 Aゾーン古墳時代 (As-c 混土層の分布と検出された遺構)



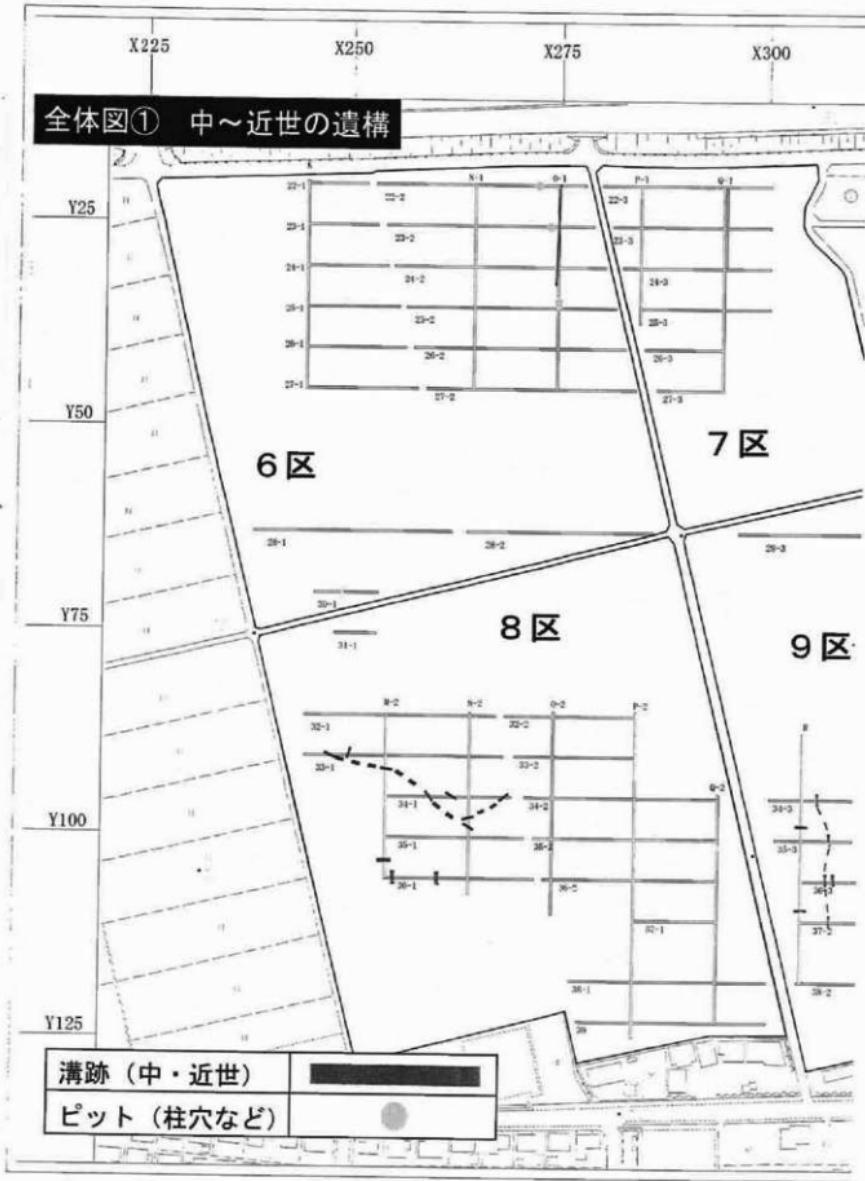
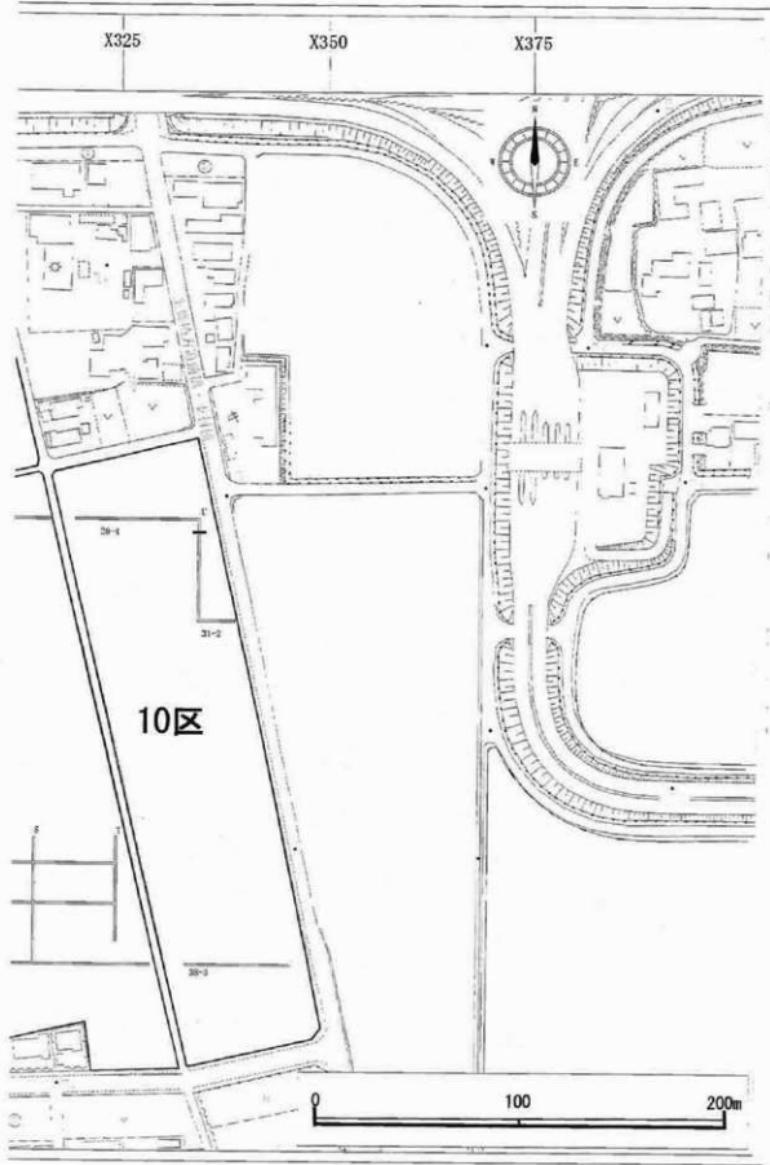


図 10 B ゾーン中世～近代の遺構



全体図② 平安時代（As-B軽石の分布と検出された遺構）

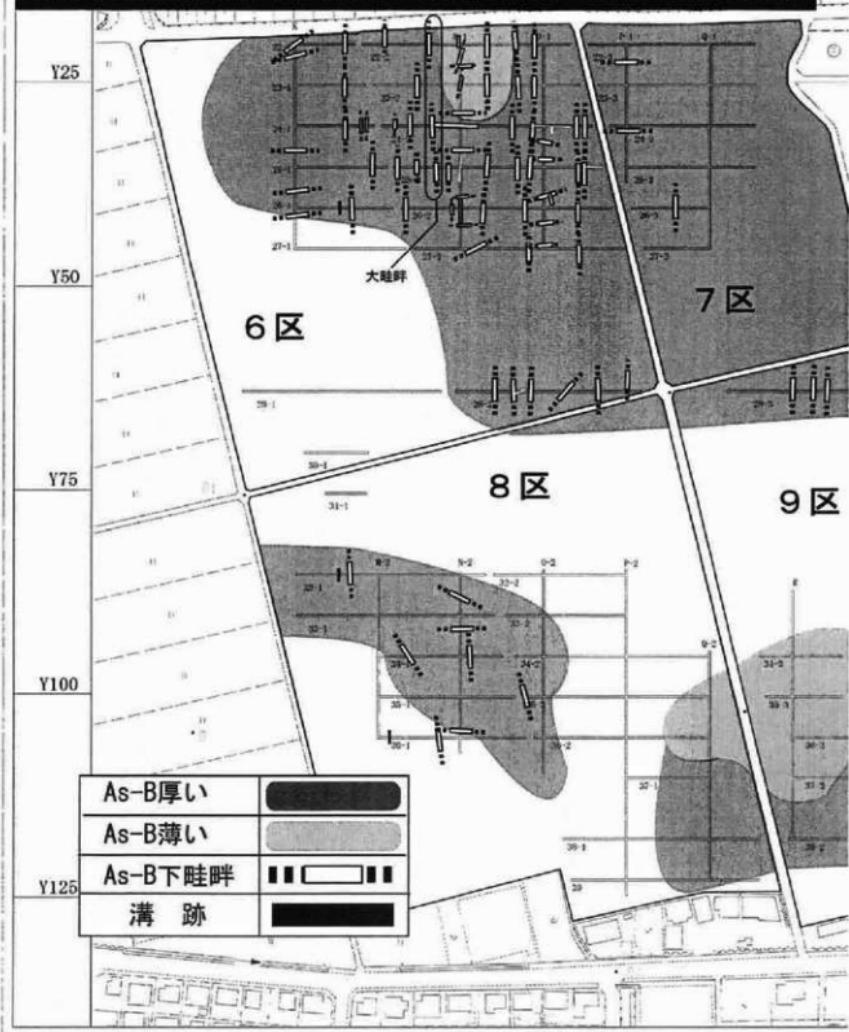
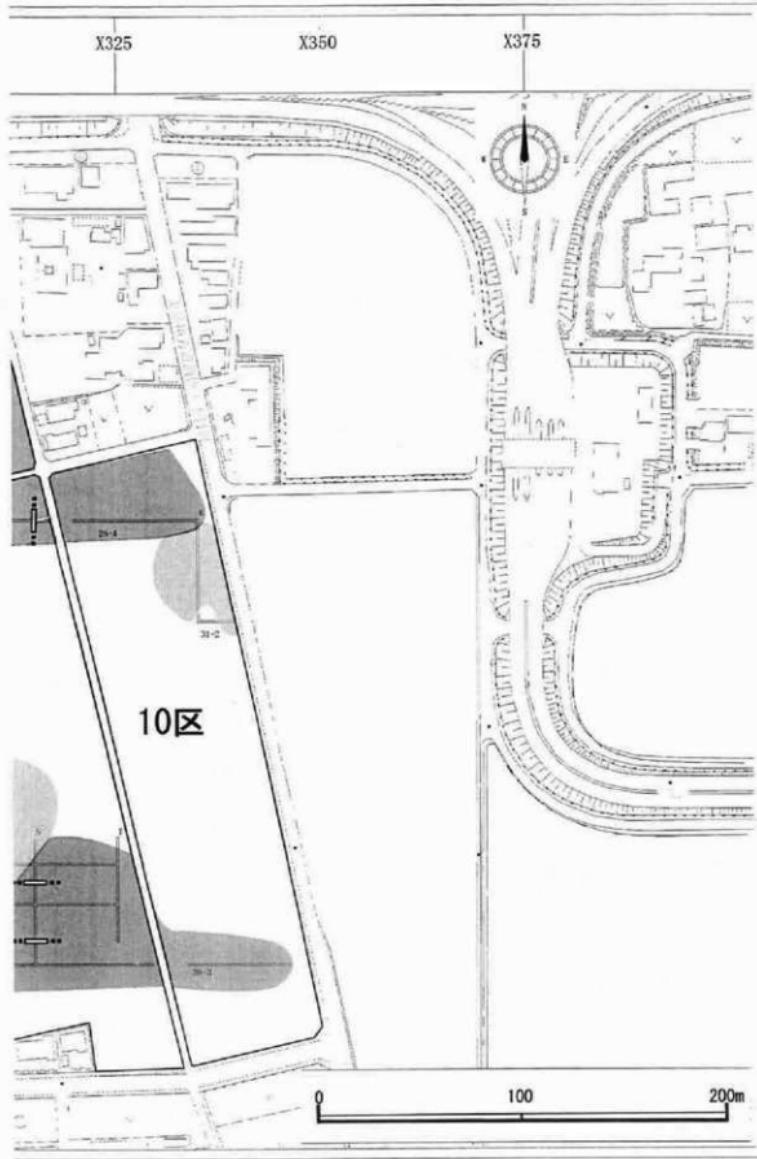


図 11 Bゾーン平安時代（As-B軽石の分布と検出された遺構）



X225

X250

X275

X300

全体図③ 古墳時代 (As-C混土層の分布)

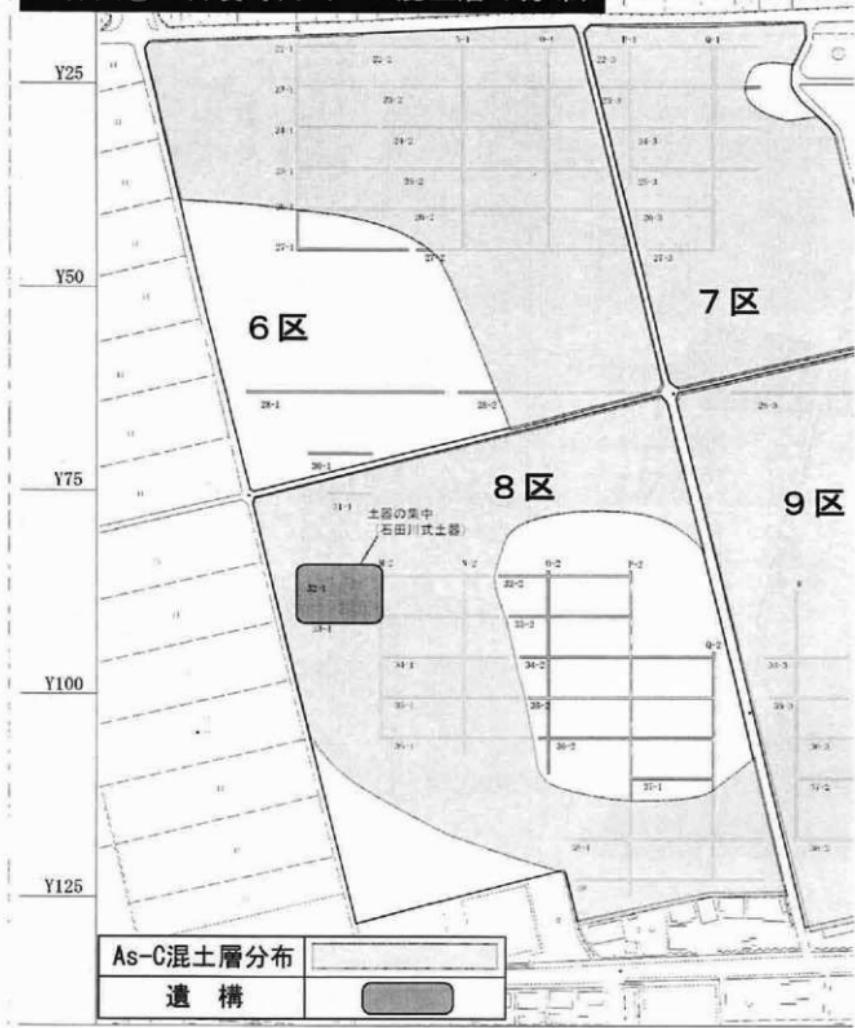
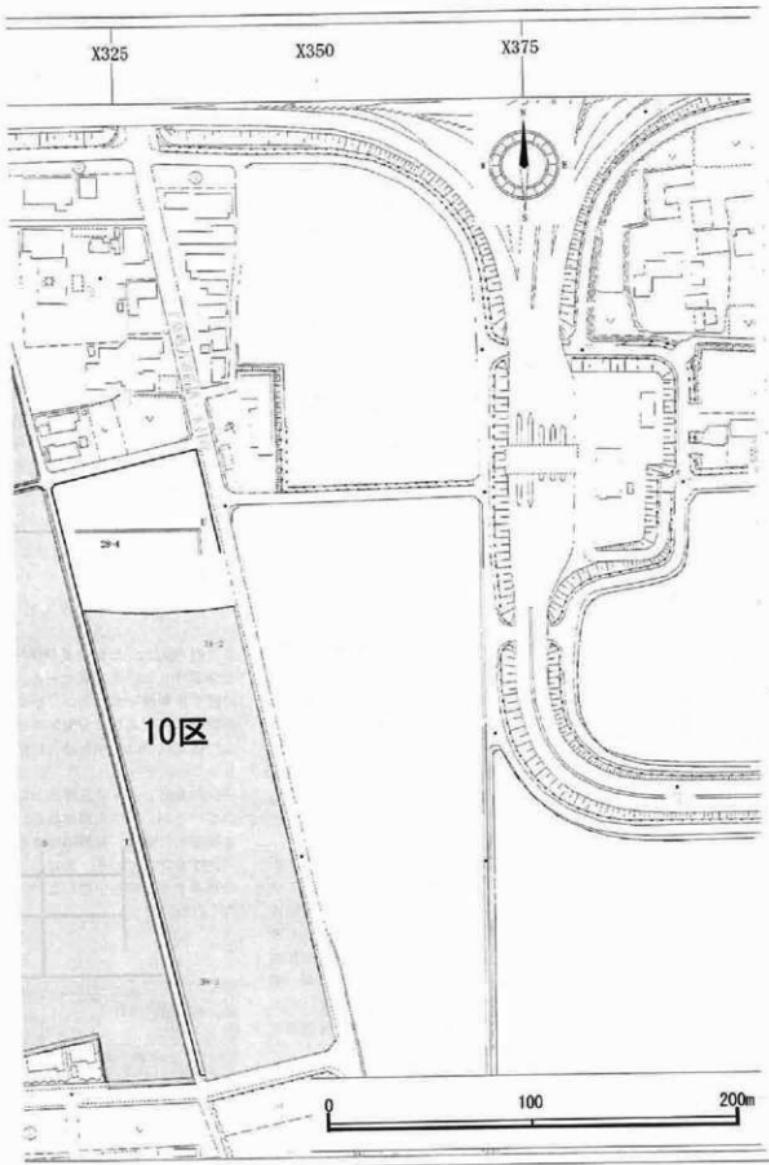


図 12 Bゾーン古墳時代 (As-C混土層の分布と検出された遺構)



①元總社蒼海遺跡群(20)(20A130-20)



遺跡位置図

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元總社町 1805-4 他

調査期間 平成 20 年 4 月 17 日から

平成 21 年 12 月 25 日まで

担当者 阿久澤真一・清水亮介

神宮聰・小田哲生

池田史人・綿貫綾子

調査面積 4,351 m²

調査の経緯 前橋市都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けた発掘調査を行った。

調査の成果 元總社蒼海遺跡群(20)は調査区が元總社蒼海土地区画整理事業区域内に点在するため調査区全体を 1~11 区に区分した。

染谷川染谷川左岸の台地上である 5・7・8・9・11 区からは、古墳から奈良・平安堅穴住居跡 32 軒、溝跡 10 条、土坑 29 基、道路状遺構 2 条を検出した。国分尼寺南面の 7 区からは、瓦敷き遺構を検出した。D-3 号土坑からは須恵器壺 G、短頸壺が共伴して出土するな

ど、国分尼寺との関係をうかがわせる。

推定国府域北側に近接する 1・2・6 区からは、古墳から奈良・平安堅穴住居 20 軒、溝跡 6 条、土坑 13 基を検出した。

牛池川に近接する 3・10 区からは古墳から奈良・平安堅穴住居 15 軒、溝跡 6 条、土坑 8 基を検出した。3 区では 6 世紀前半頃と考えられる 1 边 6.5m 方の H-6 号住居跡を検出した。この住居は焼失後に人为的に埋められたと考えられる。遺構・遺物とも残存状況が良く、該期の諸特徴をよく表している。

4 区は試掘調査のみ行った。

今回の調査では過去の蒼海遺跡群の調査に統いて、推定国府城周辺の集落の広がりと変遷を考える資料を得ることができた。また、国分尼寺南面で検出した資料については、今後さらに調査を進めることでより明らかになるであろう。

② 元總社蒼海遺跡群(21)
(20A130-21)



27 地点全景



事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元總社町 2171 番地

調査期間 平成 20 年 10 月 7 日から

平成 20 年 12 月 26 日まで

担当者 山下歳信(前橋市教育委員会)・日沖剛史(有限会社毛野考古学研究所)

調査面積 1,178 m²

調査の経緯 前橋市都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。調査について、市教育委員会から、前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の照会をしたが、調査団が直営で発掘調査を行えないため、有限会社毛野考古学研究所へ発掘調査の委託をした。

調査の成果 本調査の結果、9 地点において堅穴状遺構 4 基、土坑 16 基、溝 5 条、盛土状遺構 1、ピット 127 基が検出され、土師器、須恵器等が出土した。また、27 地点において土坑 121 基、溝 4 条、ピット 631 基が検出され、灰釉陶器、須恵器、青磁、カラワケ等が出土した。9 地点は蒼海城の縁田屋敷

に、27 地点は上野国府及び蒼海城関連と想定されている地点である。9 地点の縁田屋敷においては、新旧の堀跡が検出されており、蒼海城の改修が本丸付近だけではなく、縁田屋敷にまで及んでいたと考えられる。27 地点では中世の遺構として井戸や溝等が検出されているが、W-3 号構は弧状に走行する箱型状の構で、蒼海城の馬出となる可能性を含んでいる。また、上野国府に関連する遺構も少ないものの確認されている。



9 地点 W-1 号構

③ 元総社蒼海遺跡群 (22)
(20A130-22)



8区西半全景



遺跡位置図

④ 元総社蒼海遺跡群 (23)
(20A130-23)



23地点全景



遺跡位置図

事業名 元総社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元総社町1312番3他

調査期間 平成20年10月7日から

平成21年2月6日まで

担当者 山下義信（前橋市教育委員会）・宇佐美義泰（技研測量設計株式会社）

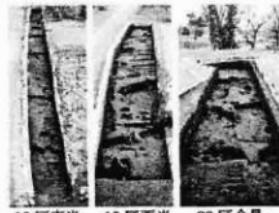
調査面積 1,362 m²

調査の経緯 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。調査について、市教育委員会から、前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の照会をしたが、調査団が直営で発掘調査を行えないため、技研測量設計株式会社へ発掘調査の委託をした。

調査の成果 本調査の結果、奈良・平安時代の整穴住跡57軒、溝状構築50条、古代・中世土坑68基、ピット103基を検出し、縄文時代の土器片、石器、奈良・平安時代の灰軸、須恵器、土師器、瓦等が出土した。

縄文時代では遺構は確認されないが、前期後半から中期後半の土器片や打製

石斧片がわずかな量であるが採取されている。弥生時代では土坑が1基検出され、遺物は少ないが後期の遺構と思われる。古墳時代では、後期後半の住居跡がいずれの区からも検出されている。奈良時代とともに軒数は多くないが、以後平安時代中半前後まで集落の形成が続くことになる。



10区東半 10区西半 33区全景

事業名 元総社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元総社町1883番1他

調査期間 平成20年11月4日から

平成21年1月20日まで

担当者 山下義信（前橋市教育委員会）・日沖剛史（有限会社毛野考古学研究所）

調査面積 1,313 m²

調査の経緯 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。調査について、市教育委員会から、前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の照会をしたが、調査団が直営で発掘調査を行えないため、有限会社毛野考古学研究所へ発掘調査の委託をした。

調査の成果 本調査の結果、23地点において古墳時代末と平安時代の整穴住跡20軒、土坑9基、溝6条、ピット25基が検出され、土師器、須恵器、青磁、瓦等が出土した。また、24地点において土坑24基、溝7条、ピット76基、性格不明遺構1基が検出され、土師器、須恵器、青磁、白磁、カワラケ、

石製品等が出土した。23地点においては、蒼海域に関わると想定される堀が確認された。また、24地点で検出された堀の中には、多量の焼土、炭化物、遺物、種が観察されたものがあり、焼き討ち等を被った改修前の土壘・建物資材、礎石、食器と推測される。25・26地点では蒼海域新段階の堀を捉えることに主眼を置いていた調査を行ったが、堀の立ち上がりは確認できず、堀底の検出のみに留まった。



24地点全景

⑤ 元總社蒼海遺跡群 (24)
(20A130-24)



遺跡位置図

⑥ 元總社蒼海遺跡群 (25)
(20A130-25)



遺跡位置図

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業
所在地 前橋市元總社町 1715 番 2 他
調査期間 平成 21 年 1 月 7 日から
平成 21 年 2 月 12 日まで
担当者 山下誠信（前橋市教育委員会）・前田和昭（技研測量設計株式会社）

調査面積 1,665 m²

調査の経緯 前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。調査について、市教育委員会から、前橋市埋蔵文化財発掘調査團へ調査実施の照会をしたが、調査團が直営で発掘調査を行えないため、技研測量設計株式会社へ発掘調査の委託をした。

調査の成果 本調査の結果、縄文・古墳・奈良～平安時代の堅穴住居跡 34 軒、土坑 71 基、奈良～平安・中世の溝跡 7 条、中世の井戸 2 基、溝 4 条等が検出され、縄文時代の土器片、石器、奈良～平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦等が出土した。

本調査においては、縄文時代から古

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業
所在地 前橋市元總社町 2049 番 2 他

調査期間 平成 20 年 12 月 26 日から
平成 21 年 2 月 10 日まで

担当者 山下誠信（前橋市教育委員会）・日沖剛史（有限会社毛野考古学研究所）
調査面積 232 m²

調査の経緯 前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。調査について、市教育委員会から、前橋市埋蔵文化財発掘調査團へ調査実施の照会をしたが、調査團が直営で発掘調査を行えないため、有限会社毛野考古学研究所へ発掘調査の委託をした。

調査の成果 本調査の結果、古墳時代末と平安時代の堅穴住居跡 10 軒、土坑 4 基、硬化面 2 基、ピット 30 基を検出し、縄文時代の黑浜式土器、古墳・平安時代の土師器、須恵器、平安時代の灰釉陶器、鉄製品、中世の青白磁梅瓶が 2 個完形で出土した。

墳・平安・中世に亘る遺構を確認した。元總社蒼海遺跡群の立地する、染谷川と牛池川に挟まれた台地上の土地利用のあり方について、調査の進展に伴う今後の解明が期待される。



出土した遺物

遺構外出土物である青白磁梅瓶は舶来品で、13世紀～14世紀の南宋～元の時期にあたるものである。これは、蒼海城に関連するものと考えられ、本遺跡地は蒼海城の縄張り図によると諫訪屋敷にあたる部分とされている。元總社蒼海遺跡群(23)の溝跡(蒼海城本丸または二の丸に想定される部分)からは本遺跡から出土した梅瓶と同時期の舶来陶磁器が二次焼成を受けた状態で多数出土しており、蒼海城の火災に伴って本遺跡地である諫訪屋敷に持ち出された可能性もある。



出土した青白磁梅瓶

⑦ 山王庵寺(20A135)



⑧ 上細井北遺跡群(1) (20B16)



事業名 山王庵寺範囲内容確認調査

所在地 前橋市総社町総社2380ほか

調査期間 平成20年9月1日から

平成20年12月17日まで

担当者 池田史人・綿貫綾子

調査面積 350 m²

調査の経緯 山王庵寺は総社町山王地区に所在し、7世紀後半の創建と考えられる古代寺院跡である。平成18年度から5ヵ年計画で伽藍配置や寺域の範囲とその内容を確認する発掘調査を実施しており、今年度は第3年次の調査を行った。

調査の成果 20年度調査の目的は、①塔跡の範囲確認、②南面回廊の確認、③金堂北側建物跡の範囲確認、④寺域北・南辺の確認であった。

塔跡については、昭和54・56年度の調査区に重複する形で、北・西側の範囲を調査した。結果、瓦積の基壇外装を確認し、基壇規模は一辺13.6mであることが判明した。また、基壇の周囲では白色粘土を敷設し、さらに玉石で整地されている状況が確認できた。基壇は旧地表から1m近く掘り下げ、掘込地業を施す。基壇高は現存で0.6mほど

が確認できた。さらに、心礎据え付け穴と見られる掘り込みが確認されるなど、塔基壇の構造について多くの知見を得ることができた。

7次調査では、基壇周辺整地層下から富寿神宝・隆平永宝が出土しており、今回の調査でも富寿神宝が2点出土した。このことから、確認された基壇周辺の整地は9世紀以降のものと考えられ、瓦積も同時期のものであることが分かった。この時期に塔の修復が行われたものと考えられる。

南面回廊については、昨年度、金堂南側で検出したB-3号建物跡の範囲を調査した。結果、版築土が東西に長く延びることが分かり、これが南面回廊であることがほぼ確定した。これにより回廊は、東西80m、南北82mとなり、ほぼ正方形であることが分かった。

また、昨年度金堂北側で検出したB-2号建物跡の調査では、建物の地業規模が南北7.5m、東西10.2m以上となり、東西棟の建物と確認された。寺域については、昨年度に引き続き北・南側で調査を行ったが、間連する遺構は検出できなかった。

事業名 上細井土地改良事業

所在地 前橋市上細井町420-1ほか

調査期間 平成20年9月1日から

平成21年2月10日まで

担当者 阿久澤真一・清水亮介

神宮 啓・小田哲生

調査面積 4,162 m²

調査の経緯 上細井土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が平成20年7月14日付けで上細井土地改良区より前橋市教育委員会に提出され、これを受けて平成20年8月18日に試掘調査を行い、遺構が確認されたため平成20年9月1日より発掘調査を行った。

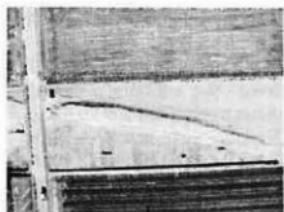
調査の成果 上細井北遺跡群(1)は調査区が上細井土地改良事業に伴う幹線道路と水路用地部分であるため幅が3.2m~5mの狭長のトレーチ状の調査区であり、上細井土地改良区内に点在するため1区~6区内に区分した。

赤城山南麓の標高140~150mの舌状台地上に縄文の堅穴住居跡1軒、古墳から平安時代までの堅穴住居跡が58軒・溝跡12条・土坑37基・古墳1基を検出した。主だった遺構としては、

5区の古墳は円墳で墳丘上部部分は耕作・石材の採掘等により削平されていた。石室も耕作・石材の採掘等により天井石・壁石等の上段部の石はなくなっていた。よって内部はすでに盗掘され石室内部の土をウォーターセパレーショントしたが遺物は検出されなかった。

2区からは縄文時代の堅穴住居跡が検出されて、上層から床面にかけて土器片が出土し、諸種c式の土器片等が多数出土した。この住居跡は台地の中央部にあり、古墳時代中期・後期の住居跡も同様の分布傾向がある。これは台地中央部が古代からの住居構造の適地であったためと考えられる。奈良・平安時代の遺構は台地の北側及び西側にかけて分布する。西側には奈良・平安時代の住居跡のみを検出した。このところになると住居が増え西にも作ることになったと考えられる。

② 南部拠点遺跡群 No. 1 (20G61)



遺跡位置図

事業名 前橋市南部拠点地区土地区画整理事業

所在地 前橋市鶴光町 360 番 1

調査期間 平成 20 年 10 月 28 日から

平成 21 年 1 月 30 日まで

担当者 山下歳信（前橋市教育委員会）・有山徑世（有限会社毛野考古学研究所）

調査面積 6,970.5 m²

調査の経緯 組合施行の前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う試掘調査を平成 20 年 7 月 2 日から 8 月 12 日まで行い、古墳集落、平安水田、中～近世溝・屋敷跡を検出した。現状での保存が不可能なため、施工者である前橋市南部拠点地区土地区画整理組合設立準備委員会から埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。調査について、市教育委員会から、前橋市埋蔵文化財発掘調査團へ調査実施の照会をしたが、調査團が直営で発掘調査を行えないため、有限会社毛野考古学研究所へ発掘調査の委託をした。

調査の成果 本調査の結果、古墳時代～平安時代の水田跡、溝跡 46 条、井戸

跡 1 基、ピット 4 基、近代の河川跡 2 条が検出され、古墳～平安時代の土器、須恵器、中近世以降の陶磁器が出土した。

As-B 層下の水田には、1 町 (109m) 四方の方格地割を採用した、いわゆる「条里型地割」が認められる。中世になると微高地に屋敷地が造営されるようになるが、低地は近世に至るまで水田として利用され続けている。しかし、中世のある段階になると、基幹水路が条里型地割の坪境と関係のない位置に外れていくようになり、条里型地割を厳密に踏襲しようとする意識が徐々に薄れていった様子も窺える。

のピット 10 基、溝 1 条、奈良～平安時代の水田跡、中・近世の土坑 7 基、溝 14 条、ピット 98 基を検出し、縄文～弥生時代の土器片、古墳～平安時代の土器片、須恵器片、中・近世の陶器片、磁石が出土した。

本遺跡周辺では、北関東自動車道及び関連道路整備に伴い、群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を行い、As-B 水田が検出されており、大畦畔も確認されている。

本調査においても、黒調査で確認された大畦畔の延長線上に大畦畔が確認されており、本遺跡を含む地域一帯において律令制を支えた水田が広範囲に耕作されていたことがうかがえる。

③ 南部拠点遺跡群 No. 2 (20G62)



遺跡位置図

事業名 前橋市南部拠点地区土地区画整理事業

所在地 前橋市下内町 80 番 1 他

調査期間 平成 20 年 10 月 30 日から
平成 21 年 2 月 20 日まで

担当者 山下歳信（前橋市教育委員会）・板垣宏（スナガ環境測設株式会社）

調査面積 9,092 m²

調査の経緯 組合施行の前橋市南部拠点地区土地区画整理事業に伴う試掘調査を平成 20 年 7 月 2 日から 8 月 12 日まで行い、古墳集落、平安水田、中～近世溝・屋敷跡を検出した。現状での保存が不可能なため、施工者である前橋市南部拠点地区土地区画整理組合設立準備委員会から埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。調査について、市教育委員会から、前橋市埋蔵文化財発掘調査團へ調査実施の照会をしたが、調査團が直営で発掘調査を行えないため、スナガ環境測設株式会社へ発掘調査の委託をした。

調査の成果 本調査の結果、古墳時代

② 南町市之坪遺跡(20H-44)



遺跡位置図

③ 天神Ⅲ遺跡(20A140-1)



遺跡位置図

事業名 集合住宅建設

所在地 前橋市南町四丁目 46番1他

調査期間 平成20年6月25日から

平成20年7月11日まで

担当者 山下謙信（前橋市教育委員会）・大嵩崎泰明（有限会社歴史考房まほら）

調査面積 220 m²

調査の経緯 平成20年3月11日に山口誠二氏より当該地についての埋蔵文化財確認調査の実施依頼を受けた。これを受けて平成20年4月22日に試掘調査を行い、古墳～平安時代の住居跡、土坑、掘立柱建物跡と土器等も検出したため、施主と協議を行った。現状での保存が不可能とのことから、記録保存を目的とした調査について調整に入り、発掘調査することになった。市教育委員会の指導のもと、有限会社歴史考房まほらが発掘調査を実施した。

調査の成果 本調査の結果、古墳～平安時代の竪穴住居15軒、掘立柱建物1棟、土坑2基、ピット1基が検出され、土師器杯、高杯、鉢、壺、甕等が多数出土した。本遺跡は市街地に隣接する地域にあり、周辺地域を含む遺跡、

の存在はあまり知られていないかったが、今回の調査及び南に隣接する生川遺跡や広瀬川沿いに点在する古墳の状況から古墳時代の集落跡が広範囲に展開することが示唆される。また、県内の報告例では方形周溝墓・古墳に限って出土していたパレス系壺が石田川期の住居跡からまとめて4点出土したこと、本集落の特殊性・重要性を予測させられる。

本遺跡が市街地に在っても後世の破壊を免れた重要な遺跡が存在する可能性を示したこと、石田川期～鬼高間に営まれた集落の存在が証明されたこと、市街地周辺初のパレス系壺の出土、及び県内における新たな出土事例が得られたことは大きな成果である。



出土したパレス系壺

事業名 集合住宅建設

所在地 前橋市元総社町宇早道 825番地1

調査期間 平成20年6月2日から

平成20年6月15日まで

担当者 山下謙信（前橋市教育委員会）・大嵩崎泰明（有限会社歴史考房まほら）

調査面積 172.2 m²

調査の経緯 平成20年3月に開レオパレス21高崎支店より当該地の埋蔵文化財確認調査の実施依頼を受けた。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地（上野国府跡）に属し、西と北の隣接地点で天神遺跡・天神II遺跡の発掘調査が行われているため、事前に試掘調査を実施し、遺跡の有無、構造までの深さや内容を確認する必要が生じた。これを受けて平成20年5月23日に試掘調査を実施し、奈良～平安時代の住居跡、構跡と土器等を検出した。開発計画により遺跡の現状保存が不可能とのことから、記録保存を目的とした発掘調査について協議に入り、発掘調査となつた。市教育委員会の指導のもと、有限会社歴史考房まほらが発掘調査を実施した。

調査の成果 本調査の結果、奈良～平安時代の住居跡12軒、掘立柱建物1棟、土坑5基、構造遺跡3条などを検出した。遺物としては、綠釉陶器、灰釉陶器、須恵器杯、盤など贈入品と思われるものや、刀子、大形円面鏡、または香炉などの役所に関係すると思われる特殊な遺物が数多く見られ、この時期に見られる一般的な集落とは明らかに相違が認められた。狭い範囲の調査であり、隣接する天神遺跡を含めても集落の全体像を把握することはできなかつたが、上野国におけるこの地域の特殊性を示唆できたこと、また本県において出土事例が少ない八稜鏡が出土したことは古代社会を考える上で有益、かつ重要な情報を得られたことは大きな成果である。



出土した八稜鏡



八稜鏡推定復元

④ 純社村東02遺跡(20A142)



事業名 社員寮建設

所在地 前橋市総社町総社2056番地

調査期間 平成20年12月25日から

平成21年1月23日まで

担当者 山下誠信（前橋市教育委員会）・金子正人、樺田友寿（スナガ環境測設株式会社）

調査面積 178 m²

調査の経緯 平成20年7月に日新電機㈱前橋製作所より当該地の埋蔵文化財確認調査の実施依頼を受けた。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地には指定されていなかったが、周辺に宝塔山古墳や蛇穴古墳、村東遺跡等多くの遺跡があることから、事前に試掘調査を実施し、遺跡の有無、遺構までの深さや内容を確認することとした。平成20年11月27日に試掘調査を実施し、平安時代の住居跡を検出した。開発計画により遺跡の現状保存が不可能とのことから、記録保存を目的とした発掘調査について協議に入り、発掘調査となった。市教育委員会の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が発掘調査を実施した。

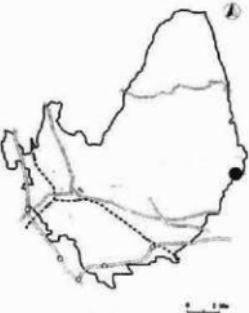
調査の成果 本調査の結果、古墳時代の住居跡5軒、奈良～平安時代の住居

跡15軒、時期不明の住居跡3軒、版築状の遺構1棟、堅穴状遺構1棟、土坑2基、ピット5基、溝1条、井戸跡1基を検出し、古墳～平安時代の土師器、須恵器、磁石、礫石等が出土した。本調査地は周知の埋蔵文化財包蔵地には指定されていなかったが、本調査により多数の住居跡が検出されたことにより、純社古墳群や山王庵寺といった周辺の重要な遺跡と併せて本調査地が古代から重要な場所であったことが確認された。



出土した遺物

⑤ 柏川町一日市宿後遺跡(20K2)



事業名 市道柏川2063号線(南部幹線田面地区)道路改良工事

所在地 前橋市柏川町一日市175番
5他

調査期間 平成20年11月26日から
平成20年12月26日まで

担当者 山下誠信（前橋市教育委員会）・笠原仁史、大嵩崎泰明
(有限会社歴史考房まほら)

調査面積 600 m²

調査の経緯 平成20年9月18日付で前橋市長高木政夫(東部建設事務所)

より当該地に計画されている道路工事に係る埋蔵文化財確認調査依頼があり、これを受けて9月24・25日に試掘調査を行った。その結果、堅穴住居跡と構築等のほか古墳時代の土器等も検出したため協議を行った。現状での保存が出来ないということから、記録保存を目的とした発掘調査を行うことになった。前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと、有限会社歴史考房まほらが発掘調査を実施した。

調査の成果 本調査の結果、古墳時代の住居跡4軒、土坑2基、ピット1基、

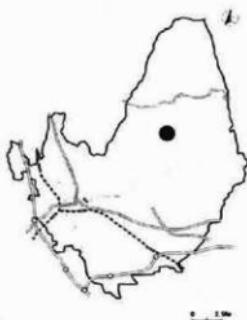
中近世以降の構跡3条を検出し、土師器、須恵器、陶器が出土した。本遺跡で確認された住居跡はいずれも5世紀中～後葉に帰属すると考えられ、北に隣接する堤頭遺跡と同一集落跡であることは明確である。集落跡は柏川から北へ入り込んだ谷地を挟んで東西の台地上に展開しており、その中心は住居跡の分布状況から北部と想定される。つまり、本遺跡で確認された住居跡は谷の入り口部に立地し、本集落跡の南西端に位置していると考えられる。

今回の調査において、5世紀の集落跡が谷地に沿って台地縁辺部に展開する傾向が窺えたことは一つの成果である。



遺物出土状況

⑯ 滝窪 No. 1 遺跡 (2016)



遺跡位置図

事業名 事務所・倉庫建設

所在地 前橋市滝窪町943番1他

調査期間 平成20年4月21日から

平成20年5月9日まで

担当者 山下巖信(前橋市教育委員会)・大島崎泰明(有限会社歴史考房まほら)

調査面積 1,500 m²

調査の経緯及び経過 平成20年1月に小野里工業㈱より当該地の埋蔵文化財確認調査の実施依頼を受けた。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、開発面積が約7,500 m²と広大なため、遺跡の有無、遺構

までの深さや内容を確認する必要が生じた。これを受けて平成20年2月29日・3月1日に試掘調査を実施し、縄文時代の前期後半の竪穴住居跡と土坑を検出した。開発計画により遺跡の現状保存が不可能のことから、記録保存を目的とした発掘調査について協議に入り、発掘調査となった。市教育委員会の指導のもと、有限会社歴史考房まほらが発掘調査を実施した。

平成20年4月21日に重機による表土掘削を開始し、4月22日から遺構調査を開始。5月9日までに測量、写真撮影を行い、同日に器材を撤収し、現地調査を終了した。

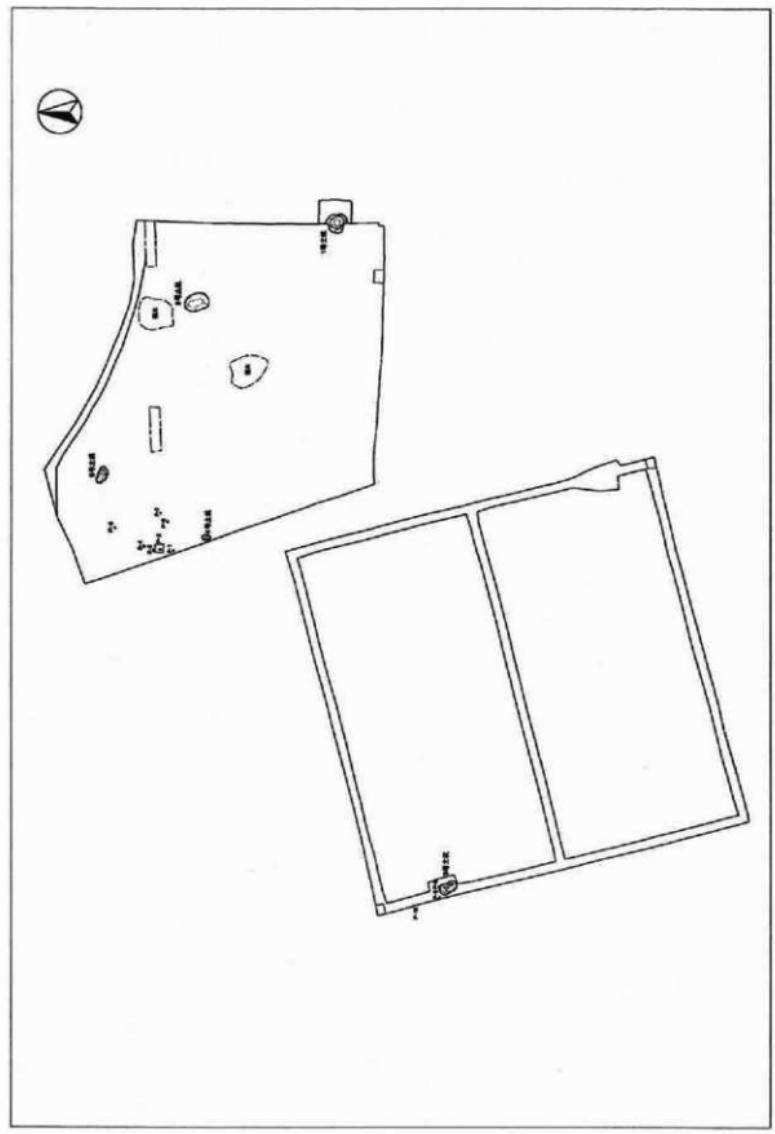
出土遺物 縄文時代前期土器片4点、横型石匙1点、エンドスクレイバー1点

調査の成果 本調査の結果、縄文時代の陥穴2基、土坑3基、ピット群が検出され、2号土坑(陥穴)からは黒浜式に比定される縄文土器口縁1点と黒色頁岩のエンドスクレイバー1点が出土した。3号土坑(陥穴)からは遺物は出土しなかったが、その形状から縄文時代の陥穴と判断した。

本調査により確認できた遺構・遺物は数少ないものであったが、2基の陥穴は、県内でよく確認される等高線に沿って掘られたものではなく、等高線に直行するように掘られたものであった。調査区の北西側に遺構が集まっており、試掘で確認された竪穴住居も北西の調査区外であったことから、遺跡の中心である集落域は北西側の台地鞍部にあったと考えられる。



調査区全景(北から)



掩埋No.1 遺跡発掘調査全体図



1号土坑土層断面（西から）



1号土坑完掘（南西から）



2号土坑土層断面（西から）



2号土坑完掘（南から）



2号土坑遺物出土状況



3号土坑完掘（南から）



3号土坑土層断面（南西から）



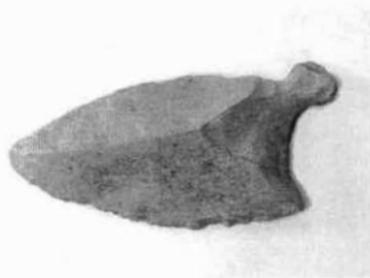
4号土坑土層断面（南から）



5号土坑土層断面（南東から）

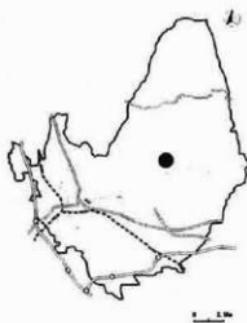


1号ピット遺物出土状況



1号ピット出土石匙

⑯ 堀越甲真木II遺跡 (2017)



遺跡位置図

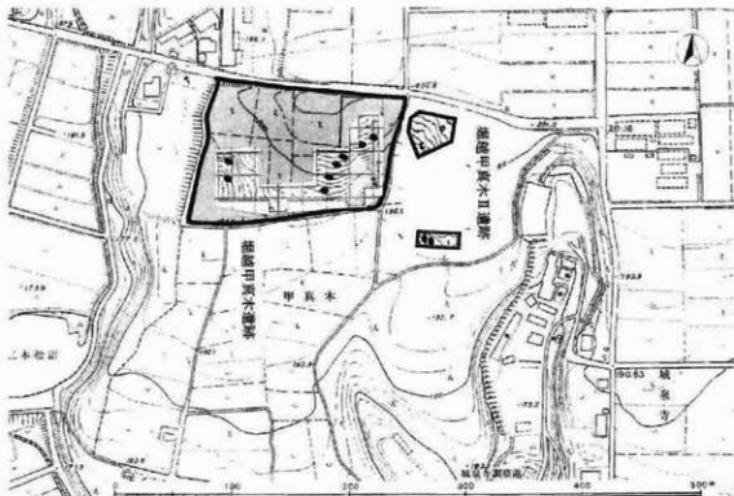
事業名 工場建設
所在地 前橋市堀越町579番2他
調査期間 平成20年6月16日から
平成20年7月4日まで
担当者 山下歳信(前橋市教育委員会)・板垣宏(スナガ環境測定株式会社)
調査面積 1,500 m²
調査の経緯及び経過 平成20年3月に瞬山口製作所より当該地の埋蔵文化財確認調査の実施依頼を受けた。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地(堀越甲真木C地点)

遺跡)であるため、遺跡の有無、遺構までの深さや内容を確認する必要が生じた。これを受けて平成20年5月21日～22日に試掘調査を実施し、縄文時代の陥穴を検出した。開発計画により遺跡の現状保存が不可能とのことから、記録保存を目的とした発掘調査について協議に入り、発掘調査となった。市教育委員会の指導のもと、スナガ環境測定株式会社が発掘調査を実施した。

調査区は、A区とB区にわかれしており、南側のA区から調査を開始した。平成20年6月16日に重機による表土掘削を開始、併せて人力による精査を進め遺構の確認に努めた。6月18日からB区の表土掘削にはいった。7月4日すべての調査を終了し、資材の搬出を行った。

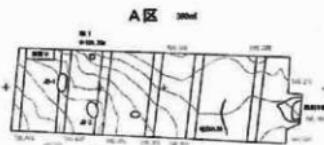
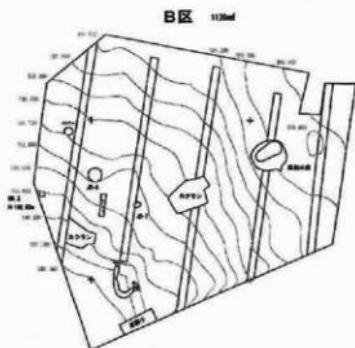
出土遺物 A区の遺構確認面から4点出土。土器は、小片1点と縄文時代前期後半に属する諸穢式の深鉢片1点。石器は、調整痕のある剥片1点と旧石器時代後半に属する黒曜石の細石刃1点。

調査の成果 本調査の結果、A区からは土坑2基(陥穴)、風倒木跡1ヶ所、地割れ跡1ヶ所を検出し、B区からは縄文時代に属すると思われる土坑2基と風倒木跡1ヶ所等を検出した。本調査地点の道路を隔てた西側には堀越甲真木遺跡があり、等高線にほぼ平行で配列の間隔も一定の距離を保つ陥穴群が検出されているが、本遺跡との関連は認められなかった。



堀越甲真木遺跡との関係図

堀越甲真木Ⅱ遺跡



堀越甲真木Ⅱ遺跡発掘調査全体図



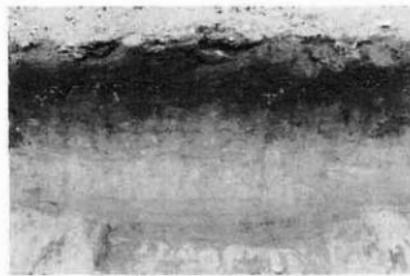
A区全景（西から）



A区縄文土坑（陥穴）-1（南から）



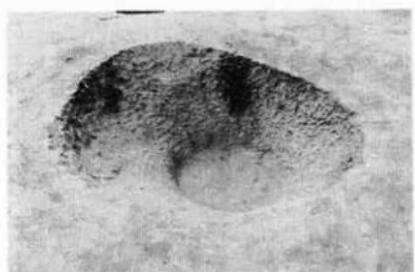
A区縄文土坑（陥穴）-2（南から）



A区深掘りセクション（南から）



B区全景（北西から）



B区縄文土坑-6（北西から）



B区縄文土坑-7（南から）



B区深掘りセクション（北から）

⑦ 元總社著海遺跡群(20A140)



遺跡位置図

事業名 マンション建設

所在地 前橋市元總社町1429-1他

調査期間 平成20年5月15日から

平成20年6月6日まで

担当者 神宮 智・小田哲生

調査面積 268.50 m²

調査の経緯 平成20年2月にわかば設計より該当地の開発照会を受けた。照会地の周辺は、元總社著海土地区画整理事業に伴う発掘調査を長年に渡って行っていることから、遺跡地であることが確認されている。平成20年5月15日に試掘調査を実施した結果、遺構、遺物が検出されたため、同日より現地での発掘調査を開始するに至った。

調査の成果 本遺跡は元總社町の西部、上野国府推定域の西側、染谷川の左岸台地上に位置する。マンションが2棟建設される予定であるため、南側をA区、北側をB区に区分した。調査の結果、平安時代の堅穴式住居跡4軒、溝跡3条、土坑11基、晶跡が検出された。

堅穴式住居跡は9世紀中葉から10世紀代のものと考えられ、特徴的なものとしては、B区のH-3号住居跡があげられる。H-3号住居跡は、東西2.9m、

南北4.65mの長方形を呈し、東壁の中央部と南隅に2基の竈をもつ。中央部の竈は粘土、凝灰岩により両壁、天井、支柱を構築し、南隅の竈は自然石により両袖、凝灰岩により両壁、奥壁、天井を構築し、その周りを粘土で被覆している。双方の竈とも住居廃絶時まで使用していた痕跡があり、同時に2基の竈を使用していたものと考えられるが、遺物の出土状況、焼土・灰の堆積状況から主として中央部の竈を使用していたものと考えられる。

出土遺物は、A区南東部より綠釉陶器縦柄口縁部破片が出土した。染谷川左岸台地周辺では、平成18-19年度においても多くの綠釉陶器が出土している。染谷川左岸台地周辺で多くの綠釉陶器が出土する理由は不明であるが、今後行われる近隣調査の進展により解明されることを期待したい。

⑧ 六供遺跡群No.4(20H46)



事業名 前橋都市計画事業六供土地
区画整理事業

所在地 前橋市六供町741番5他

調査期間 平成21年2月12日から

平成21年2月27日まで

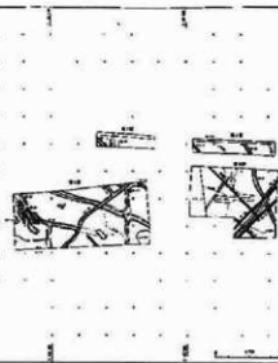
担当者 山下徹也（前橋市教育委員会）・金子正人（スナガ環境測設株式会社）

調査面積 326 m²

調査の経緯 平成20年12月1日付で前橋市長高木政夫（区画整理第一課）より当該地に計画されている区画整理事業に伴う道路工事に係る埋蔵文化財確認調査依頼があり、これを受けて12月3日～4日に試掘調査を行った。その結果、平安時代の水田跡を検出したため協議を行った。現状での保存が出来ないということから、記録保存を目的とした発掘調査を行うことになった。前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとスナガ環境測設株式会社が発掘調査を実施した。

調査の成果 本調査の結果、平安時代の水田跡、中世～近世の溝3条、土坑3基、近代～現代の溝6条を検出し、弥生～古墳時代のかめの破片等が出土

した。本調査地点は周知の埋蔵文化財包蔵地にはなっていなかったが、西側一帯は六供遺跡群となっており、過去の調査から多くの水田跡が検出されている。今回の調査により、更に広い地域が遺跡地であることが判明し、古代から人々が生活してきた場所であることが確認できた。



① 五代伊勢宮遺跡(2)(20C46)



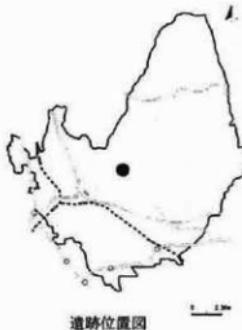
事業名 市道 00-42 号線改良工事
所在地 前橋市五代町 1075 番 1
調査期間 平成 20 年 9 月 18 日から
平成 20 年 12 月 12 日まで
担当者 山下蔵信（前橋市教育委員会）・権田友寿（スナガ環境測設株式会社）

調査面積 1,350 m²

調査の経緯 平成 20 年 5 月 2 日付で前橋市長高木政夫（道路建設課）より当該地に計画されている道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査依頼が教育委員会へ提出され、これを受けて前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の協議を行った。調査団では直営による本発掘調査の実施が困難であるとして、調査団の指導のもと、委託を受けたスナガ環境測設株式会社が発掘調査を実施した。

調査の成果 本調査の結果、縄文時代の土坑 6 基、平安時代の堅穴住居跡 1 棟、時期不明の掘立柱建物跡 1 棟、土坑 5 基、溝跡 1 条等を検出し、縄文土器、土師器、須恵器が出土した。本調査においては、遺構があり確認されず、確認面の細部精査においても遺物

の出土が少量であった。地元の古考の話によれば、現在の道路を建設するときに、勾配はなるべく緩やかで直線的になるようにブルドーザーによりロームをかなり深く削った。その時多くの土器が出土し、当時の芳賀小学校の児童と先生が拾い集め、学校に展示したことがあったとのことであった。そのために、遺構・遺物の検出が少なかったとも考えられる。



② 山王町一丁目 No.1 遺跡(20G63)



事業名 集合住宅建設
所在地 前橋市山王町一丁目 20 番 7
調査期間 平成 20 年 12 月 9 日から
平成 20 年 12 月 11 日まで
担当者 山下蔵信、塙坪丈夫、岩丸
辰久（前橋市教育委員会）

調査面積 73 m²

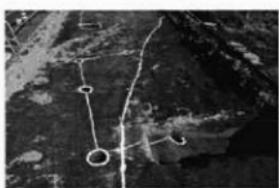
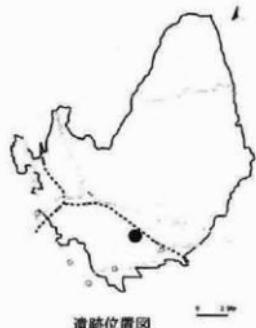
調査の経緯 平成 20 年 9 月 1 日付で亀井寅氏より当該地についての埋蔵文化財確認調査の実施依頼を受けた。これを受けて平成 20 年 11 月 18 日に試掘調査を行い、平安時代の水田跡を検出したため、施主と協議を行った。地盤改良を行うため現状での保存が不可能とのことから、市教育委員会が発掘調査を実施した。

調査の成果 本調査の結果、浅間山 B 軽石で埋まつた平安時代の水田跡、水田よりも新しい溝跡、古墳時代以降と考えられる風倒木痕が検出された。水田跡を被う B 軽石には、鰐による復旧作業と考えられる連續する波状の耕作痕を検出した。

本遺跡がある広瀬川右岸は、県内でも有数の古墳密集地帯であり、本遺跡の周辺にも金冠塚古墳をはじめとして

多くの古墳が点在したが、昭和 30 年以降の開発によりその大半が未調査のまま削平された。また、住居跡、集落跡等の調査例も少ないのが現状である。

今回の調査により、1108 年に降下した浅間山 B 軽石を耕す耕作痕が検出され、平安時代の古墳群周辺の土地利用の一部が明確になった。



掘立柱建物跡



浅間山 B 軽石に見られる耕作痕

5 市内遺跡発掘調査事業

(1) 事業の目的

周知の埋蔵文化財包蔵地及び包蔵外の規模の比較の大きい開発行為に対し、開発者と協議、調査を実施した。遺構や遺物等を確認した場合、県の指導要綱を基本に、開発者と埋蔵文化財の保存協議を行った。特に平成20年度は、上郷井町地区内の土地改良事業や前橋市南部拠点地区開発に伴う大規模な調査を実施した。

(2) 事業の内容

① 調査方法

開発地内に調査トレンチを設定、重機による表土掘削後、人力による精査をして、遺跡の有無、遺跡の範囲確認を行った。調査面積は、開発面積の1割程度を基本に調査をした。

② 記録作成

区域内の全体図作成、トレンチ内の遺構分布図、土層図を作成した。縮尺は開発区域の大きさにより、随時調整した。また写真撮影を行い記録資料とした。

(3) 調査結果

試掘調査は、53件実施した。このうち29件で埋蔵文化財が確認できた。

① 確認できた遺跡の時代

縄文時代～近世にかけての遺構を確認する。

② 調査した遺構

住居跡、古墳、水田跡、陥穴等。

③ 試掘調査から発掘調査をした遺跡

ア 上郷井北遺跡群No1 縄文・古墳・奈良・平安時代の集落跡、円墳

イ 和田川町一丁目市宿後遺跡 古墳時代の集落
ウ 南部拠点地区遺跡群No1・No2 平安時代の水田跡等

エ 六舟遺跡群No4 平安時代の水田跡等

オ 滝窪No1 遺跡 縄文時代の陥穴

カ 元總社蒼海遺跡群(瀬下マンション) 古墳～奈良・平安時代の集落跡

キ 南町市之坪遺跡 古墳～奈良・平安時代の集落跡

南部拠点地区遺跡群No2 の調査状況

ク 天神III遺跡 奈良・平安時代の集落跡等

ケ 堀越甲真木II遺跡 縄文時代の陥穴

コ 山王町一丁目No1 遺跡 平安時代の水田跡等

サ 総社村東02 遺跡 古墳～奈良・平安時代の集落跡



南部拠点地区遺跡群No2 の調査状況

6 遺跡台帳整備事業

(1) 報告書のPDFファイル化

5年計画の3年目、昨年度に引き続き、台帳整備の一環として、前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団等が刊行した調査報告書のデジタル化作業を行った。本年度業務を行った報告書等は、43冊3,988頁であった。内訳は、日本特急印刷株式会社に業務委託したものが、37遺跡3,228頁だった。また直営作業にて、旧宮城村教育委員会既刊済報告書6遺跡760頁を行った。主な報告書は以下のとおりである。

報告書名	刊行年度
芳賀田地遺跡群 第2巻	1988
村東遺跡	1988
弥勒遺跡II	1990
星形II遺跡	1996
横手油田II遺跡・西田II遺跡	1998
桥形遺跡	1981

(2) 遺跡分布調査

平成15年度より開始した詳細遺跡分布調査の6年目にあたる。本年度は大胡地区及び城南地区の一部を調査対象とした。

本事業は、資料の整備と踏査の大きく2つに分けられる。

① 資料の整備

ア 過去の発掘調査から遺跡地図を作成
イ 踏査記録から、一筆毎の遺物取得地図を作成

ウ 上記2地図及び平成19年度作成の地形図を利用し、包蔵地の線引きを行った。

② 踏査

1月から2月に実施した。城南地区的踏査は平成15年度に一度実施しているが、包蔵地の線引きにあたっては欠落箇所が多いところから、欠落箇所を中心に再度実施した。当地区には、多数の古墳の存在が知られ

ているが、現在ではそのほとんどが、は場整備等により消滅している。しかし、現状で墳丘が確認できないものの埴輪片の採取や石室に使用されたと思われる巨石・裏込め石の散布などにより、所在箇所の確認ができた古墳もあった。大胡地区では、合併前に管理用地図が作成されていたが、今回全域を対象とした踏査を実施したことにより、より精度の高い位置地図引きのための貴重な資料が得られた。

7 埋蔵文化財資料整備事業

(1) 普及パンフレットの作成

平成 20 年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、A3 版の両面印刷（表面カラー）の「い・せ・きワールド in 前橋 2009 平成 20 年度前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ」というパンフレットを作成した。表紙と裏面は児童・生徒向けに地図と写真を多く取り入れ調査内容をわかりやすくした。裏表紙は、大人・教師向けに山王廃寺についての説明と文化財保護課の事業紹介を取り上げた。

7,000 部作成し、平成 21 年度初めに小学校 5・6 年生ならびに地区公民館、市役所ロビー、各支所、教育関係機関等に配布し、埋蔵文化財に対する啓発を進めた。



(2) 出土遺物の活用

平成 20 年度の埋蔵文化財関係の出土遺物の

貸出は、10 件だった。主な貸出資料・貸出先は以下のとおりである。

貸出資料名	貸出先	目的
山王廃寺出土塑像・瓦	滋賀県立安土城考古博物館	春季特別展
天神山古墳出土鉄製釣針状金具	群馬県立自然史博物館	企画展
荒子小学校校庭 II 遺跡・山王廃寺遺跡出土銅印	新潟県立歴史博物館	秋季企画展
五代伊勢宮 VI 遺跡出土鉢文深鉢	鎌倉中学校	授業教材
茂木天神風呂遺跡出土須恵器淨瓶	かみつけの里博物館	冬季企画展
柳久保遺跡縄文土器・市之闘前田遺跡石器・大胡城土器類	群馬県立歴史博物館	常設展示 (毎年更新)

また、例年に引き続き、市内の小学校（天川小・荒子小・二之宮小）、岩宿博物館、前橋プラザ元気 21 内文化財展示コーナー、けやきオーパ、わげンフルア、元総社公民館、大室公園管理事務所ホールに出土遺物の貸出を行った。

(3) 旧 3 町村遺跡の整理

本年度は、旧宮城村教育委員会で実施した発掘調査において、発掘調査報告書が刊行されていない遺跡の資料整理を実施した。

ア 出土遺物の整理

遺物洗浄・注記は実施済みであったところから接合の見直し・復元作業を実施した。

実測資料の選別・実測・ト雷斯を実施した。

イ 図面資料の整理

発掘調査図面の整理を実施した。

ウ 調査履歴の確認

旧宮城村地内において実施された発掘調査（試掘調査も含む）について行政文書などから拾い出しを実施し、履歴としてまとめた。

(4) 遺跡地図の市統合型 GIS への対応

市の統合型 G I S への遺跡地図搭載を実施し、156 遺跡を搭載した。また、指定文化財の搭載もあわせて実施し、平成 21 年 3 月 31 日現在指定されている文化財のすべての搭載を終了した。

市の統合型 G I S に関しては、その搭載データの限界も把握できることにより、WEB による市民への公開を前提としたデータに限定し搭載することとした。また、遺跡地および指定文化

財の管理にあたっては、文化財管理に特化した個別のG I Sの構築が必要であることから、今後、個別G I Sの構築を想定した遺跡地図の整理を実施することとした。

8 山王庵寺等保存整備事業

(1) 山王庵寺等調査委員会の実施概要

山王庵寺等保存整備事業の推進にあたり、学識経験者及び行政関係者で組織された、山王庵寺等調査委員会(平成12年度発足)において、山王庵寺とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行ながる事業を実施した。

本年は、「山王庵寺範囲内容確認調査」の開始に伴い、現地視察を中心とした委員会1回と通常の定例会1回の計2回を開催した。第11回目になる委員会は、平成20年11月28日に「山王庵寺範囲内容確認調査」発掘調査地視察を併せて総社町山王公民館で、また第12回目になる定例の委員会は平成21年2月27日に市庁舎3階30会議室でそれぞれ開催された。議題となった報告及び協議は以下のとおりである。なお、併せて平成20年11月20日に現地において調査部会を開催し指導を仰いだ。

(2) 第11回山王庵寺等委員会

開催日 平成20年11月28日

現地視察 発掘調査地トレント各所

《報告》史跡追加指定及び名称変更の官報告示について

山王庵寺等調査委員会委員等の交替について
《協議》山王庵寺範囲確認調査中間報告について

① 塔部分の解明について

② 南側回廊について

③ 建物範囲の確認について

○協議後に提案された意見

① 金堂北西の建物跡の性格を明らかにする調査を進める。



現地視察

- ② 南側回廊の可能性が確認され、中門跡の調査が追求できる可能性がある。
- ③ 山王庵寺跡から放光寺跡に名称転換を検討
- ④ 基準尺度の検討
- ⑤ 山王庵寺保存整備の具体的方針を検討

(3) 第12回山王庵寺等委員会

開催日 平成21年2月27日(金)

関連する埋蔵文化財の発掘調査報告

- ① 平成20年度元総社蒼海遺跡群発掘調査について
- ② 山王庵寺出土瓦の整理状況について

○山王庵寺範囲内容確認調査について

- ① 全体計画について
- ② 平成20年度事業報告について

ア 塔跡の再確認 過去の調査で心礎北側と塔西側範囲について行なわれている調査区を再調査した。その結果、基壇外装の瓦積を確認し、塔基壇は一辺13.6mの規模と判断することができた。基壇の周囲には白色粘土上に玉石が敷かれ、雨水の対処と考えられ、基壇に伴う掘り込み地業、心礎据え付け穴を確認した。

イ 南回廊の確認 版築と川原石を伴う石据付跡を確認した。この結果、回廊に開まれた中心伽藍の規模(東西・南北80m)が明らかになった。

ウ 金堂北側の建物跡 南北7.5m、東西10.2mの地業範囲が確認され、東西棟の建物跡とみられる。

- ③ 平成21年度事業計画について
- ア 調査地点を12ヶ所・653m²を調査する。
まだ、不確定な寺域の解明を目指す。
- イ 西面回廊及び中門の解明
- ウ 東西南北の寺域の解明



発掘調査報告

あとがき

昭和から平成へ変わり 20 年が経過しました。歴史として捉えれば、短い年数かもしれません、この間にも文化が造られています。この時の刻みの中で、私達は文化を後世に残し、また伝える事業を実施しています。一つには、文化財を保護管理していく事業です。内容は除草からはじまり巡回など内容は地味ではありますが、将来へ引き継ぐための管理を地道に行ってます。統いて文化財をより皆様に身近に感じてもらうための普及事業を進めています。平成 20 年度は、高崎市との連携文化財展で中世の女堀や高崎市の箕輪城を両市の会場で紹介しました。そして国指定史跡古墳のある大室公園では、地元の協力を受けイベントを開催、市内ののみならず市外からも参加をいただきました。

そして埋蔵文化財の発掘調査では、元總社蒼海区画整理区域内にあると推定される上野国府跡の解明と山王庵寺範囲内容確認調査を行っています。この発掘調査は、地元の皆様のご理解とご協力、多くの現場作業員さんの力があって、調査が進められています。本書は、前橋市で行われた文化財事業をまとめた資料です。このまとめた資料が皆様に活用され、今後の文化財への普及や興味並びに発展へつながることを願っております。

平成 21 年 12 月 10 日

文化財保護課長 篠田 薫

平成 20 年度

平成 20 年度

前橋市文化財調査委員

阿久津 宗二
井上 唯雄
梅澤 重昭
片山 満秋
松島 栄治

文化財保護課職員

文化財保護課長 篠田 薫
文化財保護係
課長補佐兼文化財保護係長 小島 純一
副主幹 梅澤 克典
主査 丸山 正家
〃 岩崎 球郎
主任 後藤 俊雄
〃 小田 浩和
〃 馬場 崇
〃 伊興久伸子
〃 宮沢 龍一
文化財整備指導員 栗原 和彦
嘱託員 佐孝 裕美

埋蔵文化財係

課長補佐兼埋蔵文化財係長 前原 豊
副主幹 山下 敏信
〃 塩坪 丈夫
主査 小田 哲生
〃 岩丸 展久
主任 藤崎 和延
〃 真下 晃
〃 須藤 健夫
〃 阿久澤真一
〃 神宮 肇
主事 池田 史人
〃 清水 死介
嘱託員 綿貫 緑子
前橋市三保町二丁目 10番地 2 船津 弘幸

年報 第 39 集 平成 20 年度文化財調査報告書

平成 21 年 12 月発行

発行 前橋市教育委員会 管理部 文化財保護課

前橋市三保町二丁目 10番地 2

